

# 令和4年度

## 全国学力・学習状況調査における 香美町の調査結果のまとめ(概要)

### 1 調査の概要 <P1>

### 2 本町の状況

#### (1) 教科に関する調査の状況

- ア 小学校に関する状況 <P1>
- イ 中学校に関する状況 <P2>
- ウ 教科ごとの調査の状況 <P2>

#### (2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

- ・小学校国語 <P4~p5>
- ・小学校算数 <P6~P7>
- ・小学校理科 <P8~P9>
- ・中学校国語 <P10>
- ・中学校数学 <P11~P13>
- ・中学校理科 <P14~P15>

#### (3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

- ア 学校運営に関する状況について <P16~P17>
- イ 自己変容の状況について(小6の時と中3時の3年間の経過から) <P18~P19>
- ウ これまでの回答状況の変化から <P20~P25>
- エ PC・タブレットなどのICT機器の活用などについて <P26~P28>
- オ 理科の学習等について <P29~P31>

#### (4) 質問紙と正答率のクロス分析の状況から

- ア 主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と正答率の状況 <P32>
- イ 読書時間と正答率の状況 <P33>
- ウ 家庭の蔵書数と正答率の状況 <P34>
- エ 自己有用感と正答率の状況 <P35>
- オ ふるさと意識と正答率の状況 <P36>
- カ 「新聞を読むこと」と正答率の状況 <P37>
- キ 家庭学習と正答率の状況 <P38>
- ク ほめる指導と正答率の状況 <P39>
- ケ SNS、動画視聴と正答率の状況 <P40>

### 3 今後の取組の方向性について <P41~P42>



## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。

### (2) 実施期日 令和4年4月19日(火)

### (3) 調査実施校数及び人数

◇小学校6年生：10校 120人

◇中学校3年生：3校 120人



### (4) 調査内容

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

① 主として「知識」に関する問題 ② 主として「活用」に関する問題

※平成31年度(令和元年度)から①と②を一体的に問う出題となっている。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(ア) 児童生徒に対する調査

(イ) 学校に対する調査

※ 昨年度設けられた新型コロナウイルス感染症による影響に関わる問いについては、学校質問紙のみとなった。

※ 児童生徒質問紙、学校質問紙とも、理科に関する質問が新たに盛り込まれた。

## 2 本町の状況

### (1) 教科に関する調査の状況

【調査結果の分析の基準】

全国(公立)平均正答率を基準とした時の割合	全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した時の表現
+5%以上	上回る
±5%内	同程度
-5%以下	下回る

ア 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	下回る	下回る
算数	下回る	下回る
理科	下回る	下回る

イ 中学校に関する状況

教 科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国 語	同程度	同程度
数 学	同程度	下回る
理 科	同程度	同程度

※全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国公立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。(以下、全国、兵庫県と言う。)

ウ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】

◆小学校◆

(国語)

- ◎ 話し言葉と書き言葉との違いを理解したり、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えたりすることはできている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にあるが、香美町の方がやや上回っている。
- ▼ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けることなど、記述式で解答を求める問いに課題がある。

(算数)

- ◎ 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはできている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にあるが、香美町の方がやや上回っている。
- ▼ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することなどに課題がある。

(理科)

- ◎ 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えを持つことなどはできている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にあるが、香美町の方がやや上回っている。
- ▼ 実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述することなどに課題がある。

◆中学校◆

(国語)

- ◎ 学習指導要領の領域別では、〔思考力、判断力、表現力等〕における「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の「問い」は概ねできている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」は一問のみであり、同一の「問い」である。
- ▼ 自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くこと、行書の特徴を理解することに課題がある。

(数学)

- ◎ 学習指導要領の領域別では、「数と式」、「データの活用」の「問い」は概ねできている。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じであるが、全国、兵庫県よりもやや下回っている。
- 全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」の傾向は、「問い」により若干の差が見られる。
- ▼ 数学的な結果を事象に即して解釈し、数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするなど、記述して答えることに課題がある。

(理科)

- ◎ 実験の計画における条件の制御などはできている。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じであるが、全国、兵庫県よりもやや下回っている。
- 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県は3つの「問い」に対してみられるものの、香美町は1つの「問い」に対してのみである。
- ▼ 探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題がある。

(2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

「良好と考えられる事項」及び「特に課題と考えられる事項」について総括するとともに、「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」並びに正答率が10%台の「問い」について分析を試みた。

小学校 国語

【良好と考えられる項目】

- ◎ 話し言葉と書き言葉との違いを理解すること。(大問1の一)【知識及び技能】
- ◎ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること。(大問1の三)【知識及び技能】

【特に課題と考えられる項目】

- ▼ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。(大問3の二)【書くこと】

	正答率が30%以下	無回答率が10%以上	領域等
3-2	○	○	思・判・表等(書くこと)

**【問い】** 鳥谷さんは、川口さんと「文章2」を読み合い、感想を伝え合いました。次の「話し合いの様子」の二部をよく読み、あとの問いに答えましょう。

**二部** よく読み、あとの問いに答えましょう。

**【話し合いの様子の一節】**

鳥谷さん 私のがんばろうとしていることがわかるかな。

川口さん 征つてきたよ。それは、上級生が話してくれたことで、委員会では活動したことをもたして、いるからだね。

鳥谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の級生がいいね。なぞかという、最初の級生の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることがよくわかるわ。

鳥谷さん ありがとう。自分でもより進んでみるね。次は、川口さんの文章を読みながら感想を伝えるね。

1 (採点者が読む) ↓

**【文章1】**

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた。みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子をうかがって、各学級にしようかいいという活動がすばらしいと思いました。

この話を聞き、五年生の時にさっぱり委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も「わしたしむ」ことができるように、ルールや道具をくふうした。おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいです。

**【文章2】**

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた。活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子をうかがって、各学級にしようかいいそうです。

この話を聞き、五年生の時にさっぱり委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいばんせしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も「わしたしむ」ことができるように、ルールや道具をくふうした。おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいです。

**【問い】** 鳥谷さんは、川口さんと話し合ったことにも、自分の文章のよさもつくり、書くことにしました。あなたも鳥谷さんや川口さんのようによさを書きます。次の条件を守って書きましょう。

**【条件】**

- 「文章2」のよさを書きました。
- 「文章2」から言葉や文を取り上げて書きました。
- 六十文字以上、百文字以内にとめて書きました。

<3-二>

正答例

「わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後の段落に具体的に書いたりしたところです。」(99字)

解答の状況

- 誤答率が最も高いのは、【文章2】からの言葉や文の引用はできているが、【文章2】のよさについて書けていない場合である。
- 全国や兵庫県の平均正答率と比較すると約10%程度下回る。
- 無回答率は25%である。

改善に向けて考えられる方策等

- 学習指導に当たっては、互いの書いた文章を読み合い、具体的な感想や意見を伝え合う経験を積み重ねていくことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉で表したりすることができるように指導することなどが求められる。
- ペアやグループなどの指導形態を用いることにより、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどを、お互いが判断し合い、書き手のよさを見付け合うことも考えられる。

# 小学校 算数

## 【良好と考えられる項目】

- ◎被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること。(大問1-(1))【数と計算】
- ◎図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解すること。(大問4-(2))【図形】
- ◎表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること。(大問3-(1))【データの活用】

## 【特に課題と考えられる項目】

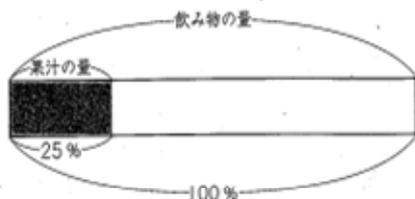
- ▼示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること。(大問2-(3))【変化と関係】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
2-(3)	○		変化と関係

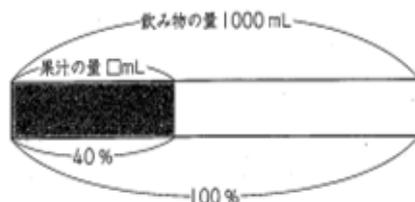
2

果汁入りの飲み物について考えます。

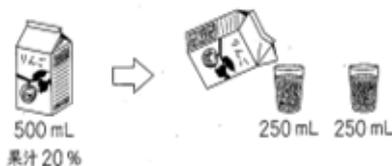
- (1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。



- (2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000 mLには、果汁が何 mL 入っていますか。答えを書きましょう。



- (3) リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上の○にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

## <2-(3)>

### 正答例

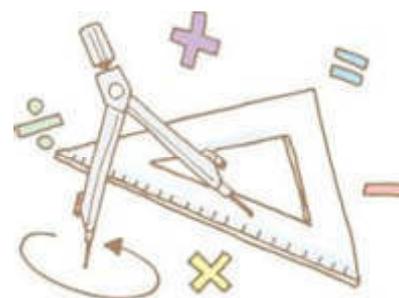
「3」(飲み物の量が $1/2$ になっても、果汁の割合は変わりません。)

### 解答の状況

- 誤答率の最も高いものは、「1 飲み物の量が $1/2$ になると、果汁の割合も $1/2$ になります。」を選択している場合であり、約70%の児童が該当する。飲み物の量に比例して、果汁の割合も同じ割合で減ると誤って捉えていると考えられる。
- 択一式の問いであるためか、無解答率は極めて低い。
- 解答の状況は全国、兵庫県と同じ傾向である。

### 改善に向けて考えられる方策等

- 日常生活でジュースなどの飲み物を飲む場合を想起させ、経験的に考えさせることが大切である。
- 併せて、実際に計算してみる活動を通して、割合は変わらないことを確かめさせることが求められる。その際、絵や図を用いて視覚的に捉えさせると効果的であると考えられる。



【良好と考えられる項目】

◎問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つこと。(大問1)-(1))【生命】

◎観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つこと。(大問4)-(1))【地球】

【特に課題と考えられる項目】

▼実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つこと。(大問3)-(4))【エネルギー】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
3-(4)	○	○	エネルギー

次に、たかしさんたちは、日光をはね返して調理する動画を見て、先生とやってみることにしました。



調理に使うなべは、黒色がよいと書いてあるよ。黒色があたたまりやすいのかな。



ほかの色も試してみたいね。赤色はどうなのかな。



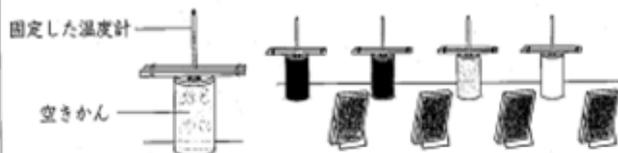
色をつけた空きかんに水を入れて、温度をはかろう。  
【問題】が見つかったね。

【問題】

はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか。

たかしさんたちは、次のような実験をしました。

【方法】



- ①同じ種類、同じ大きさの空きかんに色をぬる。(黒色、赤色、青色、白色)
- ②それぞれの空きかんに、同じ量の水を入れ、温度計をとりつける。
- ③はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの中の水の温度をはかる。

(3) 10分後、かんのようなすを見ると、はね返した日光の位置がずれていることに気づきました。



はね返した日光がかんにあたってないと、正しい実験にならないね。



鏡にさわっていないのに、はね返した日光の位置がずれるということは、太陽の位置が変化しているんだ。実験の【方法】を見直さないといけないね。



たかしさんたちは、実験の【方法】を見直して、手順③を加えました。下の  にあてはまることばを書きましょう。

【方法】

- ③はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの中の水の温度をはかる。
- ④なお、太陽の位置の変化に合わせて、はね返した日光がかんにあたるように、 を変える。

実験の【結果】は、下の表のようになりました。

【結果】

かんの色	時間	0分	20分後	40分後
黒		24℃	28℃	32℃
赤		24℃	27℃	29℃
青		24℃	27℃	30℃
白		24℃	25℃	26℃



【問題】に対するまどめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

(4) はなこさんが、下部のようにまとめたわけを上【結果】を使って書きましょう。

### <3-(4)>

#### 正答例

「黒色のかんの水の温度は、40分後には32℃で、ほかの色のかんの水の温度よりも高いから」

#### 解答の状況

- 正答の条件としては、「①缶の色」、「②時間のこと」、「③水の温度のこと」、「④缶の水の温度の比較」の4つのことを満たして理由を記述した解答が最良であるが、誤答の割合の多いのは、「結果を用いず、原因を示す内容で記述」したり、「①と④のみによる記述」をしたりしている場合である。
- 全国や兵庫県の平均正答率と比較すると約10%程度下回る。
- 無解答は約17%である。
- 択一式の問いであるためか、無解答率は極めて低い。
- 解答の状況は全国、兵庫県と同じ傾向である。

#### 改善に向けて考えられる方策等

- 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として言葉で表現できるようにすることが大切である。
- 本問のような学習を展開する際には、観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定するなどの工夫が求められる。

※該当する「問い」は、ありませんでした。

【良好と考えられる項目】

- ◎助動詞の働きについて理解し、目的にに応じて使うこと。(大問2-一)【知識及び技能 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項】
- ◎文脈に即して漢字を正しく書くこと。(大問2-二)【知識及び技能 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項】
- ◎事象や行為、心情を表す語句について理解すること。(大問3-二)【知識及び技能 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項】
- ◎漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること。(大問4-二)【知識及び技能 (3)我が国の言語文化に関する事項】

【特に課題と考えられる項目】

- ▼行書の特徴を理解すること。(大問4-一)【知識及び技能 (3)我が国の言語文化に関する事項】



【良好と考えられる項目】

◎簡単な連立二元一次方程式を解くこと。(大問2)【数と式】

◎問題場面における考察の対象を明確に捉えること。(大問6-(1))【数と式】

◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること。(大問9-(1))【図形】

【特に課題と考えられる項目】

▼結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること。(大問6-(3))

▼筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。(大問9-(2))

	正答率が30%以下	無回答率が10%以上	領域
6-(3)	○	○	数と式
9-(2)	○	○	図形

6 唐太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{lll} 2+2=4 & 4+2=6 & 6+2=8 \\ 2+4=6 & 4+4=8 & 6+4=10 \\ 2+6=8 & 4+6=10 & 6+6=12 \end{array}$$

2+2=4、4+4=8、6+6=12のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、唐太さんは次のように予想しました。

$$\begin{array}{l} 4=4 \times 1 \\ 8=4 \times 2 \\ 12=4 \times 3 \\ \text{3つとも4の倍数に} \\ \text{なっているね。} \end{array}$$

予想1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

$n$ を整数とすると、偶数は $2n$ と表される。  
同じ2つの偶数の和は、  
 $2n+2n=4n$   
 $n$ は整数だから、 $4n$ は4の倍数である。  
したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 右ページの説明1では、 $n$ を整数として、同じ2つの偶数の和を $2n+2n=4n$ と表しています。この式は $n$ の値が9のとき、どのような2つの偶数の和を表していますか。「 $8+8=16$ 」「 $14+14=28$ 」のように書きなさい。

(2) 唐太さんは、2+6=8のように、同じ2つの偶数の和のほかにも、4の倍数になることがあることから、さらにくわしく調べてみました。

$$\begin{array}{l} 2+6=8=4 \times 2 \\ 6+2=8=4 \times 2 \\ 10+14=24=4 \times 6 \\ 28+32=60=4 \times 15 \end{array}$$

そして、次のように予想しました。

予想2

差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

$$\begin{array}{l} 2+6と6+2は同じどみていいから、 \\ \text{(小さい方の偶数)+(大きい方の偶数)} \\ \text{について説明すればいいね。} \end{array}$$

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

$n$ を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、  
小さい方の偶数は $2n$ 、大きい方の偶数は $2n+4$ と表される。  
それらの和は、

$$2n+(2n+4)$$

=

(3) 同じ2つの偶数の和や、差が4である2つの偶数の和のほかにも、2つの偶数の和がいつでも4の倍数になることがあります。どのような2つの偶数のとき、その2つの偶数の和が4の倍数になりますか。右ページの予想2のように、「      は      になる」という形で書きなさい。

<6-(3)>

正答例

「差が4の倍数である2つの偶数の和は、4の倍数になる。」

解答の状況

- 誤答として最も多いのは、正答の条件（「差が4の倍数である2つの偶数の和」、「差が8である2つの偶数の和」など）につながらない解答をしている場合である。

(例)

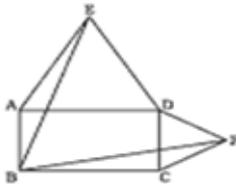
- ・ 差が2である2つの偶数の和は、4の倍数になる。
- 無解答の生徒の割合は約33%で、全国、兵庫県よりもやや上回る。

改善に向けて考えられる方策等

- 数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする機会や場を大切にしたい。報告書に掲載されている「授業アイデア例」を活用した授業を展開してみることも方策の1つとして考えられる。

9 次の図1は、長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFをかき、点Eと点B、点Bと点Fを結んだものです。

図1



琴音さんは、線分EBと線分BFについて次のことを予想しました。

予想

長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFがあるとき、 $EB = BF$ になる。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 前ページの予想が成り立つことを、次のように証明しました。

証明

$\triangle ABE$ と $\triangle CFB$ において、  
正三角形の3つの辺はすべて等しいから、  
 $EA = AD$   
長方形の向かい合う辺は等しいから、  
 $AD = BC$   
よって、 $EA = BC$  ①  
同じようにして、  
 $AB = CF$  ②  
また、正三角形の1つの内角は $60^\circ$ であり、長方形の1つの内角は $90^\circ$ であるから、  
 $\angle EAB = 60^\circ + 90^\circ = 150^\circ$  ③  
 $\angle BCF = 90^\circ + 60^\circ = 150^\circ$  ④  
①、②より、  
 $\angle EAB = \angle BCF$  ⑤  
①、②、⑤より、 がそれぞれ等しいから、  
 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$   
合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $EB = BF$

上の証明の  に当てはまる言葉を答えなさい。

(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ が成り立つので、 $EB = BF$ がいえます。琴音さんは、 $EB = BF$ 以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

図2

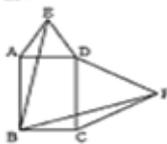
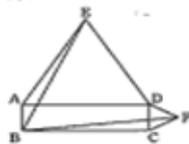


図3

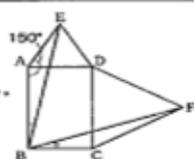


調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

①  $\angle EBF$ について、  
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、  
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、  
 $\angle EBF$ が $60^\circ$ になることがいえる。

②  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ からわかる等しい角と、  
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることが説明できます。琴音さんの考えの②にある $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の証明の  に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成しなさい。

説明

$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、  
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

<9-(2)>

**正答例**

$\triangle ABE \equiv \triangle CFB$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、

$$\angle AEB = \angle CBF \quad \dots \textcircled{1}$$

$\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は $180^\circ$ で、 $\angle BAE = 150^\circ$ であるから、

$$150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$$

$$\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ \quad \dots \textcircled{2}$$

①、②より

$$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$$

したがって、 $\triangle ABE$ と $\angle CBF$ の和は $30^\circ$ になる。

**解答の状況**

- 正答率は約6%であり、全国、兵庫県と比較しても下回っている。
- 正答以外のいずれの誤答例においても、数学的に筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を的確に説明しきれていないと考えられる。
- 無解答の生徒が約40%いる。

**改善に向けて考えられる方策等**

- 結論を導くためには何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したりするとともに、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を学習活動の中に取り入れ、数学的に説明できるようにすることが大切である。

【良好と考えられる項目】

◎変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること。(大問1)-(2) 【エネルギー】

◎分子モデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すこと。(大問3)-(1) 【粒子】

◎節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること(大問4)-(1) 【生命】

【特に課題と考えられる項目】

▼力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表すこと(大問5)-(1) 【エネルギー】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
5-(1)	○		エネルギー

5 ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学館に探究しました。

(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

【押して使うばねを研究する場面】

ばねの伸びは、加える力の大きさと比例の関係がありました。

ばねは、生活の中で押して使うことが多いですね。

ばねを押すときも、比例の関係が成り立つのかな。



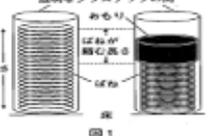
【ノートの一部】

【課題】

ばねの伸びが長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の計画】

図1の装置をつくり、ばねに加える力の大きさを変化させたときのばねの長さをも測定して平均をとり、ばねが縮む長さをも計算してグラフに表す。



【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0
縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0

【考察】

.....

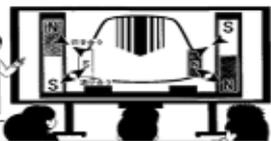
【磁石を使ったばねを研究する場面】

リニアモーターカーは、磁石の引き合う力と、磁石の退け合う力で押して走ります。

磁石の退け合う力は「磁気ばね」として利用されています。

磁石の同じ強さどうしを近づけたら、ばねみたいだったね。

「磁気ばね」では、加える力と縮む長さは比例するのかな。



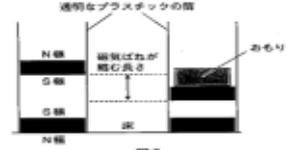
【ノートの一部】

【新たな課題】

「磁気ばね」が縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の計画】

図3のように、磁石に加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させたときの「磁気ばね」が縮む長さをも測定して平均をとり、グラフに表す。



【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.5	1.0	1.5	2.0
縮む長さ(cm)	0	1.5	2.3	2.9	3.2

【考察】

.....

(1) 図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりにはたらく重力とつり合う力を、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

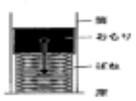
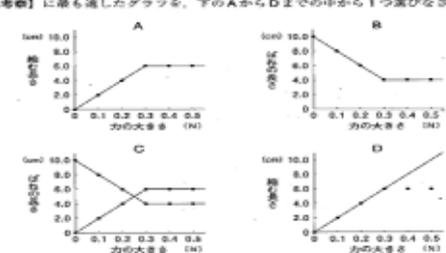


図2 おもりにはたらく重力



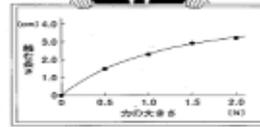
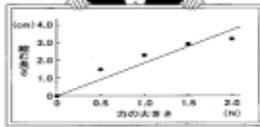
(2) 【考察】に準拠したグラフを、下のAからDまでの中から1つ選びなさい。



【グループで個人の考察も検討している場面】

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。



測定値が反りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように用やせばいいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を変更して書きなさい。

<5-(1)>

**正答例**

- ・つり合う力を表した矢印…「ア」
- ・つり合う力の説明…「キ」

**解答の状況**

- おもりにはたらく重力とつり合う力を矢印で表した場合、「ア」となることを理解できていない者が、約84%いる。
- 全国や兵庫県の平均正答率と比較すると約5%程度下回る。
- 択一式の問いであるためか、無解答は0%である。
- 解答の状況は全国、兵庫県と同じ傾向である。

**改善に向けて考えられる方策等**

- 物体に力を働かせる実験を実際に行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明するような学習場面を設定することなどが考えられる。その際、教室内の風景など、身近な風景などを活用して考察する学習活動を取り入れることも効果的であると考えられる。

### (3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

#### ア 学校運営に関する取組状況(抜粋)

学校質問紙による回答結果による香美町における取組状況は次の表のとおりである。

##### ◆学校運営に関する状況について

質問番号	質問事項
小(14)、中(14)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか。

	よく取り組んでいる	どちらかといえば、取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない
小学校	7校	3校	0校	0校
中学校	0校	3校	0校	0校

##### ◆PDCAサイクルの確立について

質問番号	質問事項
小(17)、中(17)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない
小学校	5校	4校	1校
中学校	1校	2校	0校

##### ◆学習評価について

質問番号	質問事項
小(38)、中(38)	創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をした。

	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった
小学校	5校	3校	2校
中学校	1校	2校	0校

##### ◆ICT機器の活用状況について

質問番号	質問事項
小(59)、中(59)	あなたの学校では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	4校	3校	3校	0校	0校
中学校	0校	3校	0校	0校	0校

##### ◆小学校教育と中学校教育の連携について

質問番号	質問事項
小(71)、中(69)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校(中学校)と成果や課題を共有した。

	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
小学校	1校	4校	4校	1校
中学校	1校	1校	1校	0校

◆家庭や地域との連携等について

質問番号	質問事項
小(73)、中(71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	2校	6校	2校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

◆調査結果の活用について

質問番号	質問事項
小(80)、中(78)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	3校	7校	0校
中学校	1校	2校	0校

質問番号	質問事項
小(82)、中(80)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明をむくみます。)

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	2校	8校	0校
中学校	0校	3校	0校

- 取り上げたどの項目においても、すべての学校が肯定的に回答しており、学校運営の円滑化に向けて、学校長のリーダーシップのもと、教職員が一体となって取り組んでいる様子がうかがえる。
- PC・タブレットなどのICT機器の活用については、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答状況との間に少なからず差が見られるため、今一度、検証に取り組む必要がある。(26ページ参照)
- 学習評価や小学校教育と中学校教育の連携について、「あまり行わなかった」、「全く行わなかった」と回答している学校が見られる。今後とも改善に向けた組織的な取組が求められる。

## イ 自己変容の状況について（小6時と中3時の3年間の経過から）

質問紙の経年比較により、今年度の中学3年生（120名）の意識が、小学校6年生（128名）の時（令和元年度）と比較してどのように変化しているか追跡した。

### <挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感>

\*数字は令和4年度)生徒質問紙番号〔% 上段；香美町 下段；(全国)〕

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R元年度)	中3時の回答状況 (R4年度)
7)	自分には、よいところがあると思いますか。	84.4 (81.2)	81.6 (78.5)
9)	将来の夢や目標を持っていますか。	77.3 (83.8)	61.6 (67.3)
13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.5 (97.1)	98.3 (96.4)
15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	96.9 (95.2)	95.9 (95.0)

### <学習に対する関心、意欲、態度>

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R元年度)	中3時の回答状況 (R4年度)
20)	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	77.4 (71.5)	65.0 (58.5)
53)	算数・数学の勉強は好きですか。	58.6 (68.6)	50.0 (58.1)
54)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	93.0 (93.7)	84.1 (86.6)
55)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	79.6 (83.5)	73.3 (76.2)
56)	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	92.2 (92.5)	75.0 (76.5)
58)	算数・数学の問題の解き方が分からないときには、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	87.5 (82.0)	80.0 (75.2)

< 基本的な生活習慣、学校生活等、地域や社会に対する興味・関心 >

質問事項 \ 回答状況	小6時の回答状況 (R元年度)	中3時の回答状況 (R4年度)
1) 朝食を毎日食べていますか。	95.3 (95.3)	88.4 (91.9)
2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.8 (81.4)	77.5 (79.9)
30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	46.1 (54.5)	47.5 (40.7)
43) 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(できていますか。)	80.5 (74.1)	89.7 (78.7)

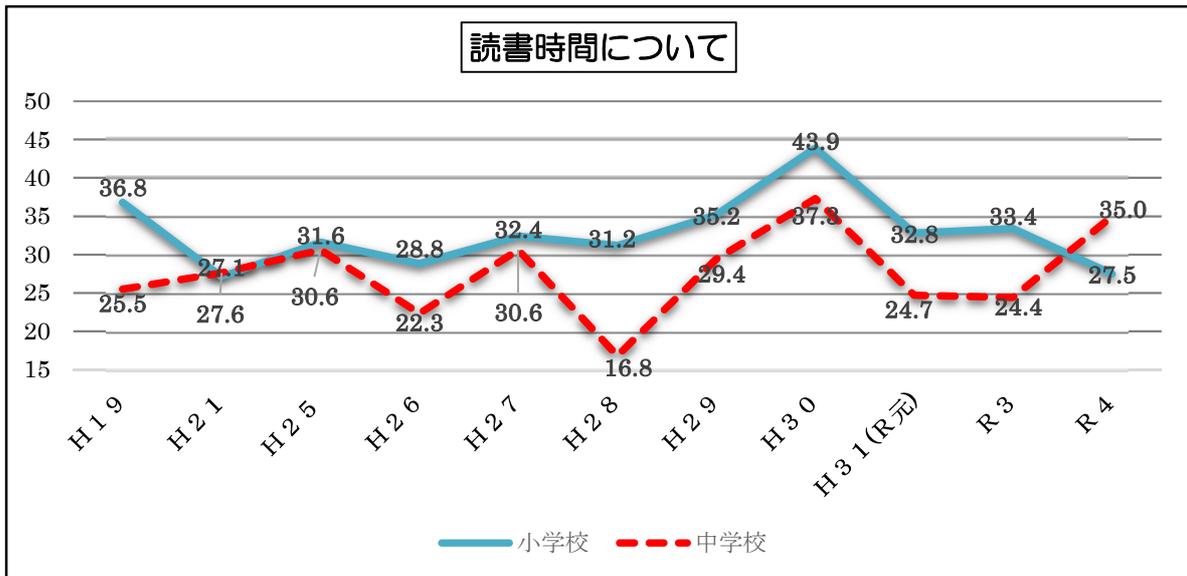
〔分析〕

- 3年間の成長過程の中で回答の割合が低くなっている項目はあるものの、全体的に自己を肯定的にとらえ、夢や目標を持って何事にも挑戦しようとしている生徒の様子が見えてくる。今後とも、夢や志を持って取り組めるよう、更なるキャリア教育の推進などが求められる。
- 規範意識は、昨年度に引き続き全国、香美町とも高い傾向にある。特に、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと。」という意識が高い。これまでからの人権教育の充実による人権意識の高揚によると考えられる。
- 小学校から中学校に進級し、教科も「算数」から「数学」に変わり、回答の割合は低下傾向にある。義務教育段階での「算数・数学離れ」を克服していく方策が求められる。
- 「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と考えている生徒が児童の時と比較して減少している。
- 算数・数学の学習をすすめるに当たっては、それらの教科の学習が、キャリア教育の視点から日常生活と結びついている場面を児童生徒に提示したり、好奇心を持って学習に臨んだりするなどの指導方法の工夫改善が求められる。
- 「朝食を毎日食べていますか」の問いに対して、肯定的に回答している割合が昨年度の生徒と比較して約8%低くなっている。(全国では約1%の減少) また、「あまり食べていない。まったく食べていない」生徒が約12%いる。
- 地域社会への貢献については、全国の割合が低下している中で、香美町の生徒では、その割合がやや高くなっている。ふるさと教育の実践などを通じて、地域の一員としての生き方を考える取組や実践が、よい意味で影響していると考えられる。

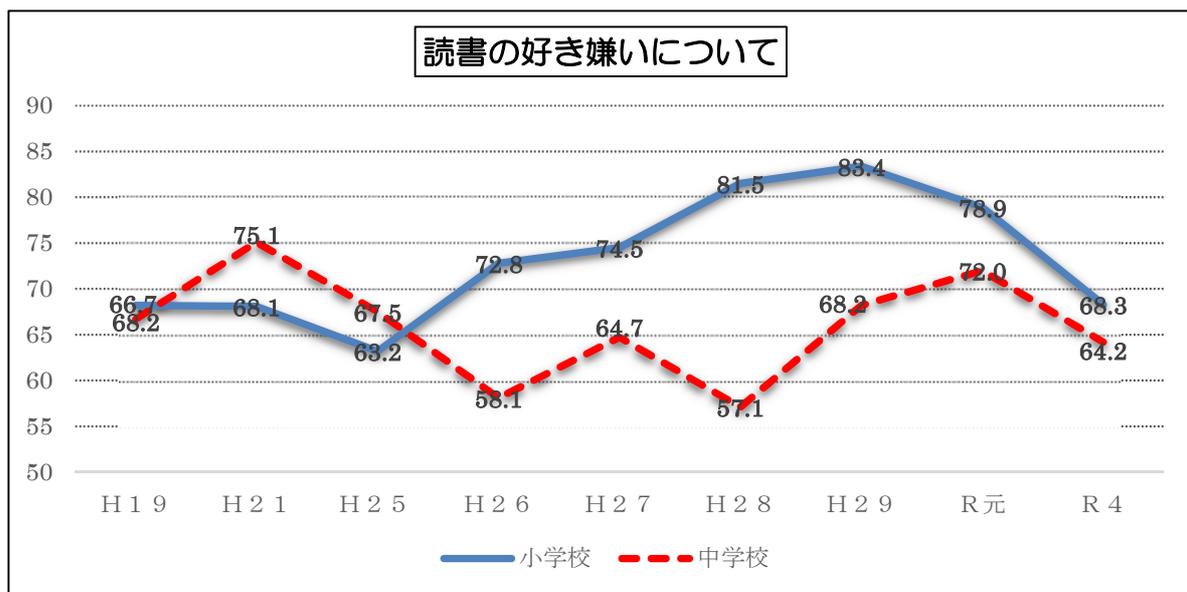
(注) 各質問事項の割合は、「している どちらかといえばしている」、「当てはまる どちらかといえば、当てはまる」など、肯定的に回答している割合である。

## ウ これまでの回答状況の変化から

### ① 【読書活動について】（「3つの町民運動」関連）



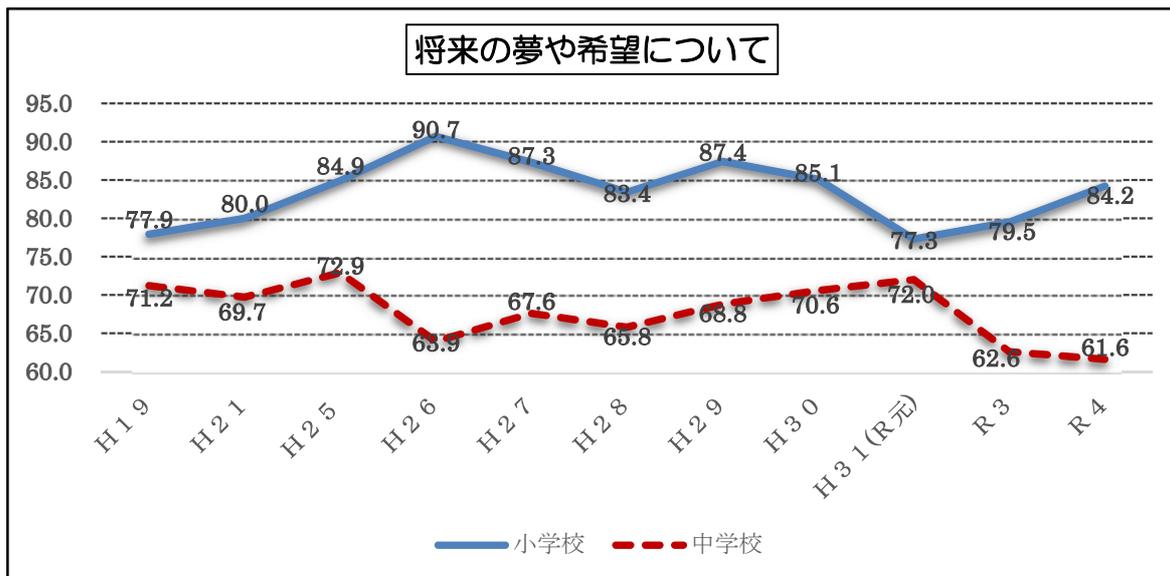
(注) 平日、学校の授業時間以外に30分以上読書する児童・生徒の割合の推移



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 児童は昨年度と比較して減少したが、生徒は増加に転じた。
- 小学校6年生時(令和元年度)には「30分以上読書する」と回答した割合が32.8%であったものが、中学校3年時には35.0%にまでやや増加している。
- 読書の好き嫌いに関する問いが復活したが、児童生徒とも前回(令和元年度)の割合が減少している。
- 今後とも「3つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

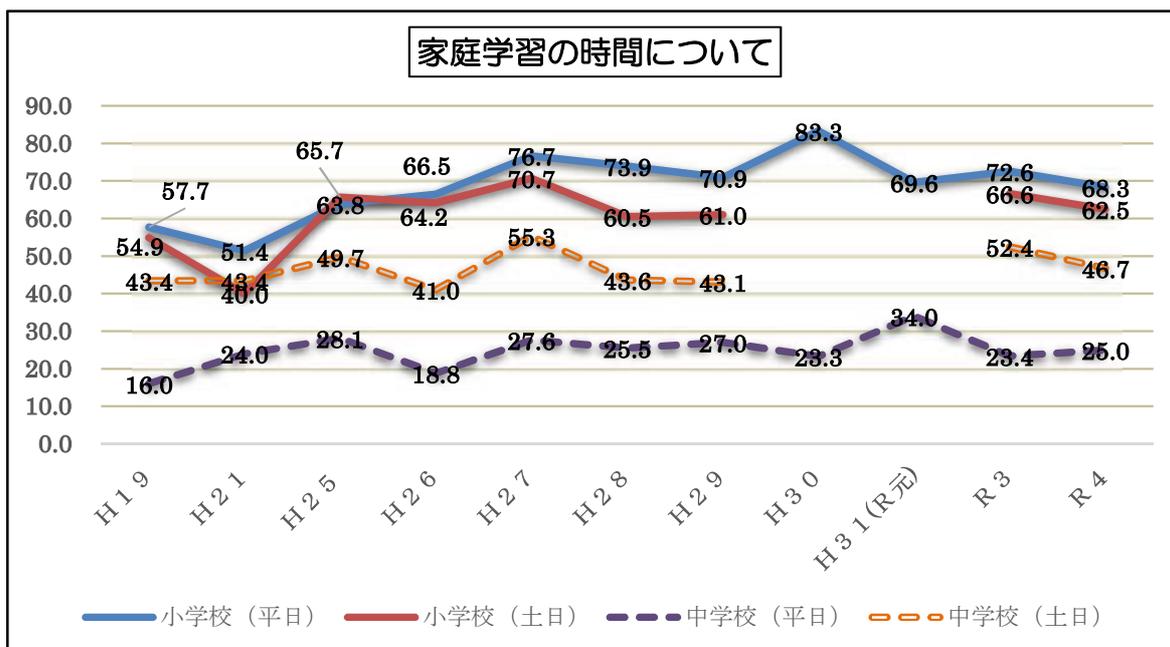
②【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）



(注) 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 今年度は、小学校は微増し、やや回復しているが、中学校はやや減少している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%前後で推移している。一方、生徒では近年60%台で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

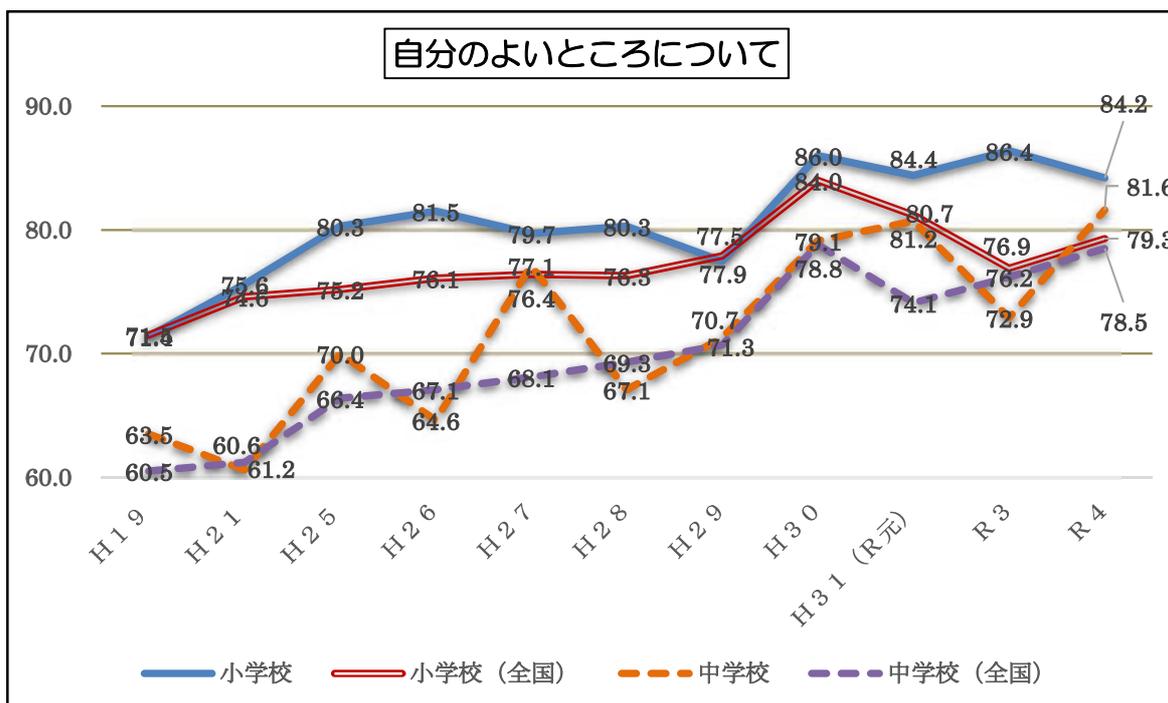
③【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）



(注) 児童…1時間以上（平日・土日とも）、生徒…2時間以上（平日・土日とも）

- 今年度、平日における児童の家庭学習の時間は、やや減少している。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と比較して微増しているものの、依然として20%台のままである。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組を着実に進めていく必要がある。
- 昨年度から土曜日、日曜日の調査が復活した。児童生徒とも昨年度よりもやや減少している。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

#### ④【自己有用感について】



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 児童・生徒とも全国と比較して自己有用感を抱いている割合は高い。
- 今年度は、小学校ではやや減少している一方で、中学校では増加に転じている。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。

⑤ 【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）



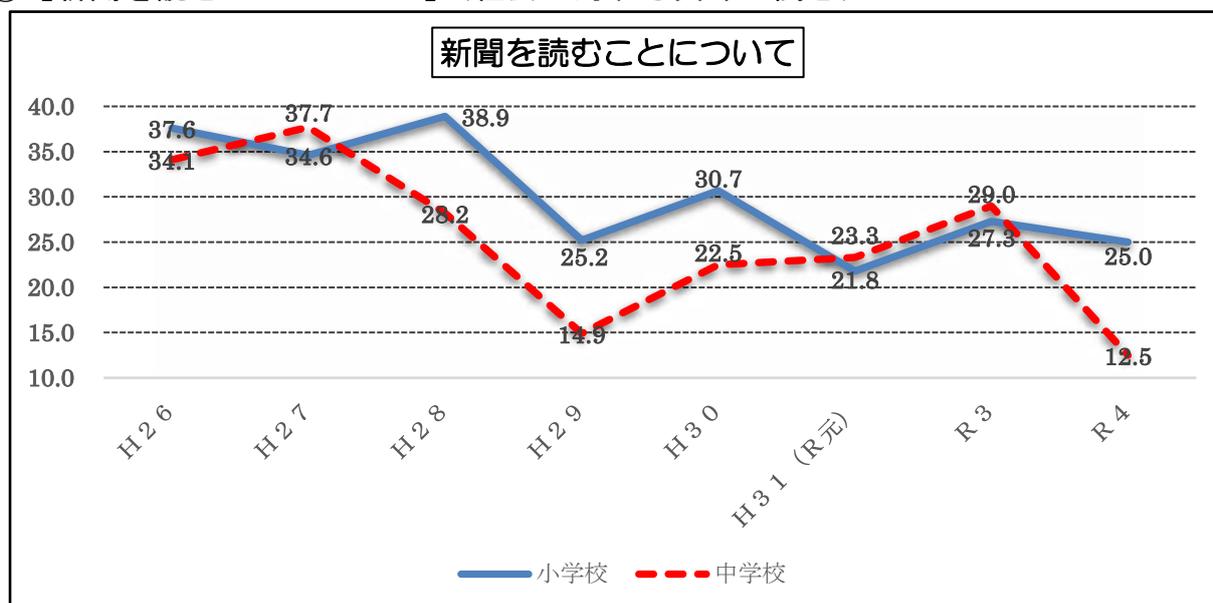
- これまで同様に、児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
- 今年度は、昨年度と比較して児童はやや低下しているが、生徒はやや増加しており、長いスパンでみると高い割合で推移しており、「ふるさと教育」の取組成果は浸透しつつあることはうかがえる。
- 学力とのクロス集計では、児童では国語において、生徒では国語、数学において、やや有意な相関関係が見られた。（P36参照）

（参考）

「今住んでいる地域が好きですか。」(平成19年度調査)の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童（小学校6年生）生徒（中学校3年生）の割合は次のとおりである。

児童	84.8%
生徒	73.1%

⑥ 【新聞を読むことについて】（社会に対する興味・関心）

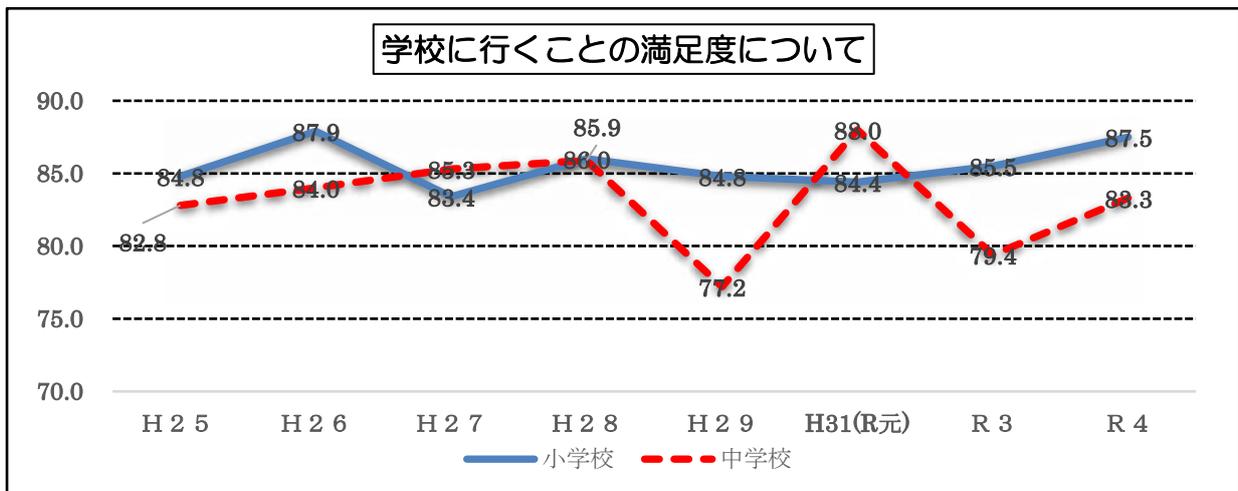


（注）平成25年度は、香美町小・中学校は本質問番号を選択していないためデータなし

- 児童生徒とも「毎日読む」、「週に1回～3回読む」を合わせて、平成26年度からの3年間は、いずれも40%に満たない程度であった。平成29年度は、更に減少傾向にあったが、それ以降、指導の成果がみられるのか、やや回復しつつあったものの、今年度は、児童生徒とも減少している。特に、生徒の減少が極端である。
- 教科の調査結果とのクロス集計では、毎日、新聞をよく読んでいる児童生徒が、国語・算数とも平均正答率が高い傾向にある。(P37参照)
- 問題の意図を読み込む力などを身に付けるためには、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことなどが求められる。



⑦【学校に行くことについて】(学校満足度関連)



(注) 平成30年度は、児童生徒質問紙に本質問がなかったためデータなし

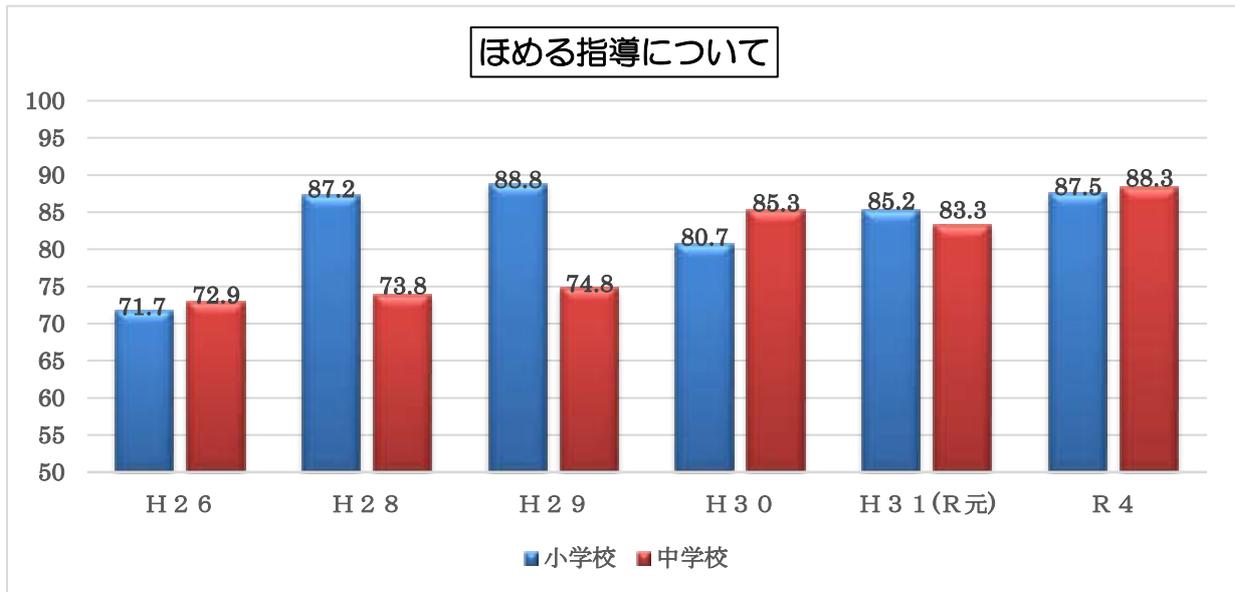
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、概ね80%台で推移している。
- 令和3年度に生徒の満足度が減少したのは、新型コロナウイルス感染症による影響で、主体性が発揮できる学校行事などが減ったことや進路への不安などが影響していたことなども考えられるが、今年度は、かなり回復している。
- 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いることが課題である。

(参考)

■ 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、次のとおりである。

	児童	生徒
香美町	60.8	45.8
兵庫県	51.0	45.3
全国	51.7	45.8

⑧【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）

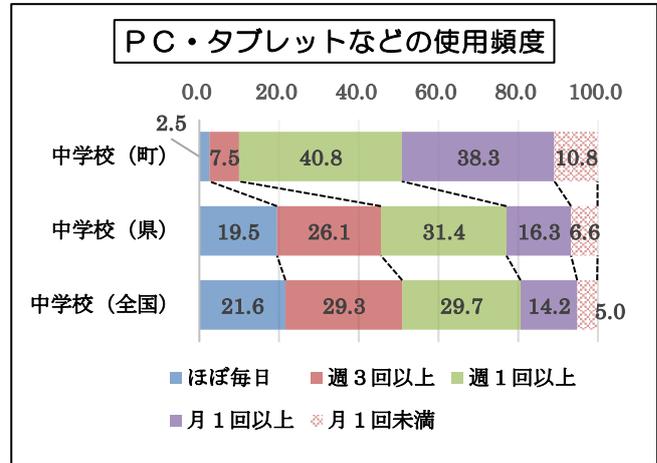
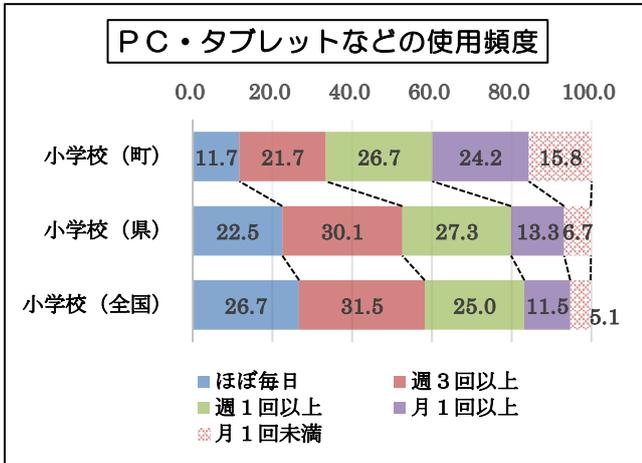


- 本質問項目は、今年度調査で、復活した。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、児童生徒ともやや増加した。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

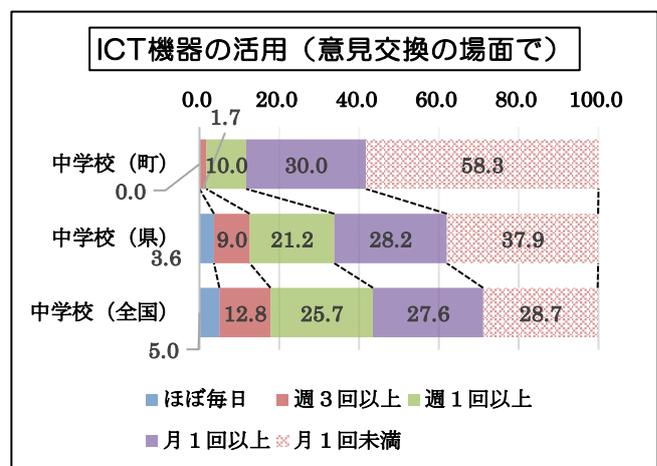
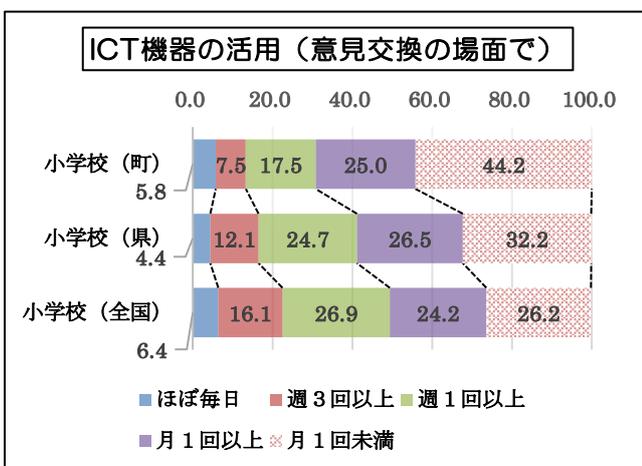
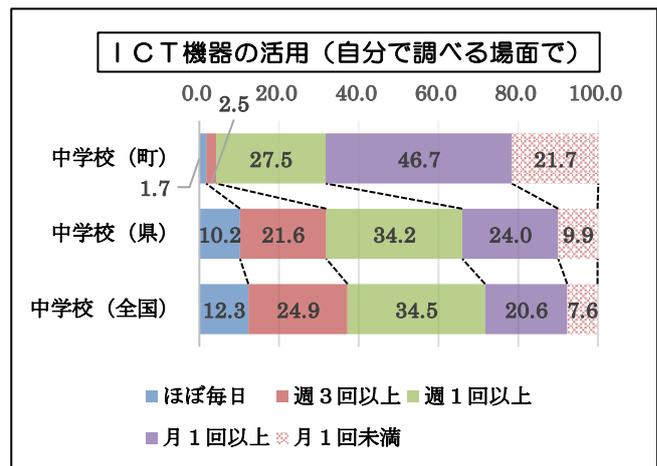
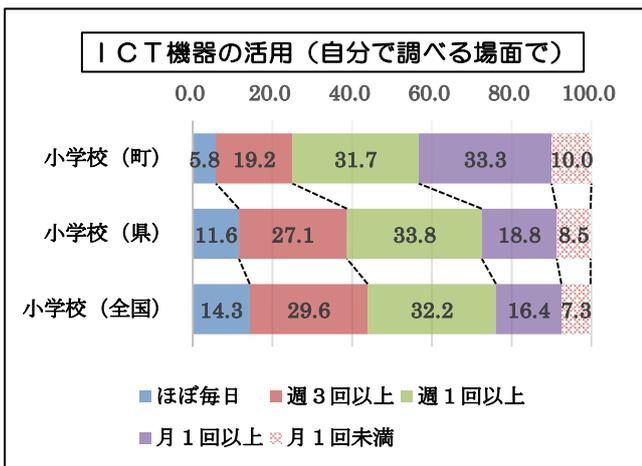
## エ PC・タブレットなどのICT機器の活用などについて

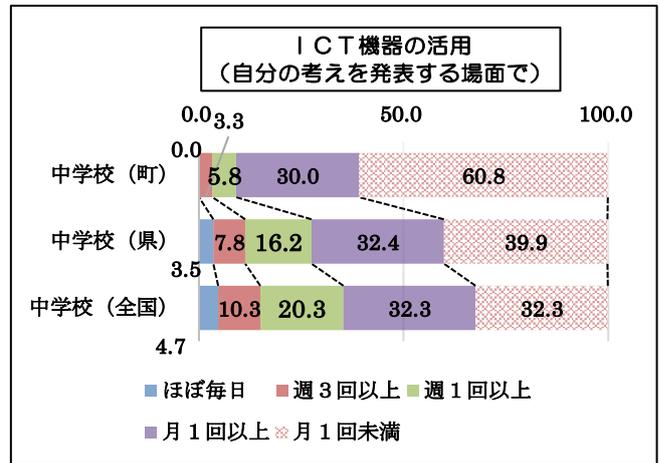
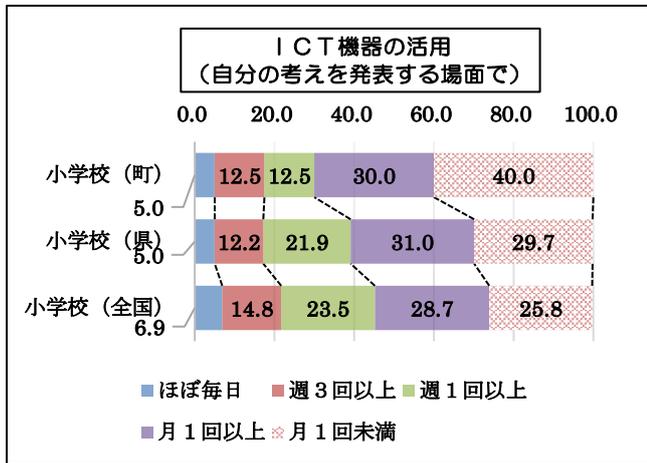
国の「GIGAスクール構想」により、児童生徒1人1台のタブレット端末の整備が、コロナ禍にあって前倒しで実施された。調査時点での活用の状況等については以下のとおりである。

### 【ICTの活用頻度①】

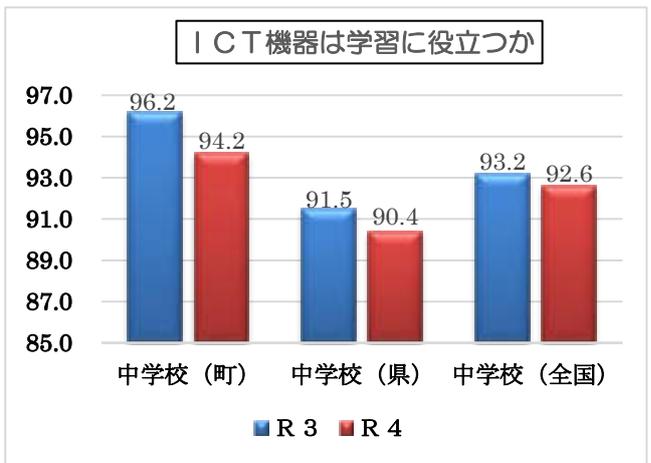
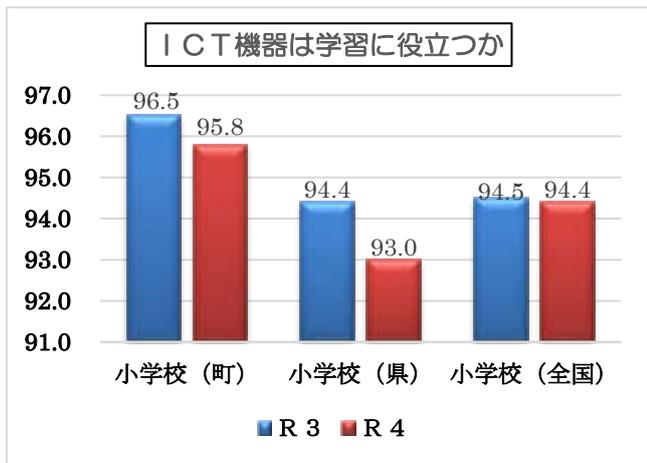


### 【ICTの活用頻度②<学習場面ごと>】

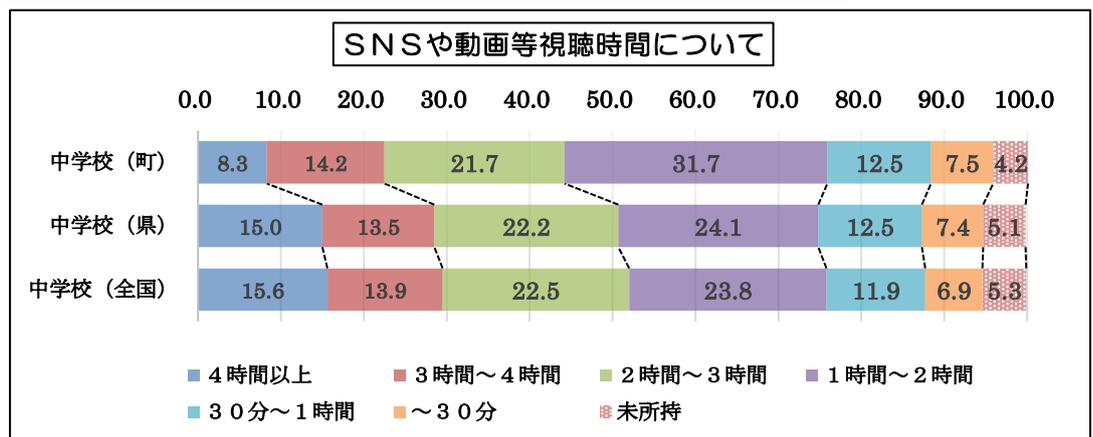
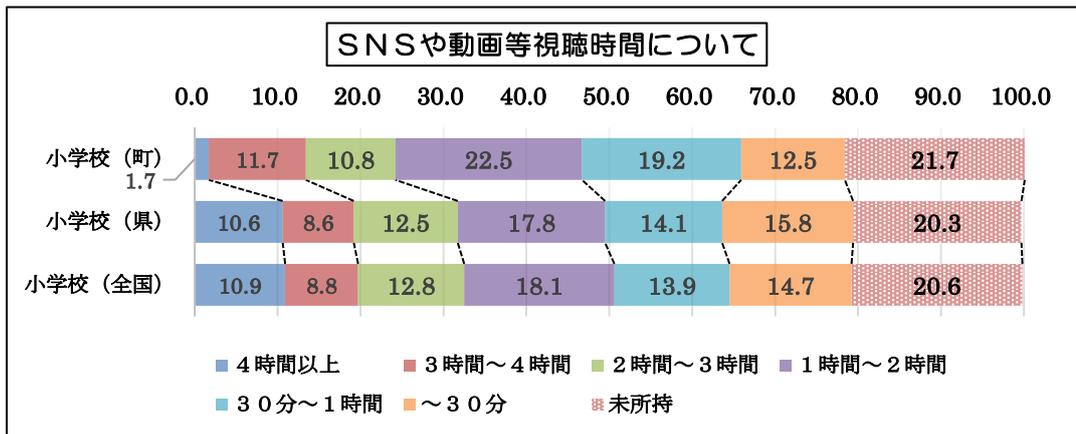




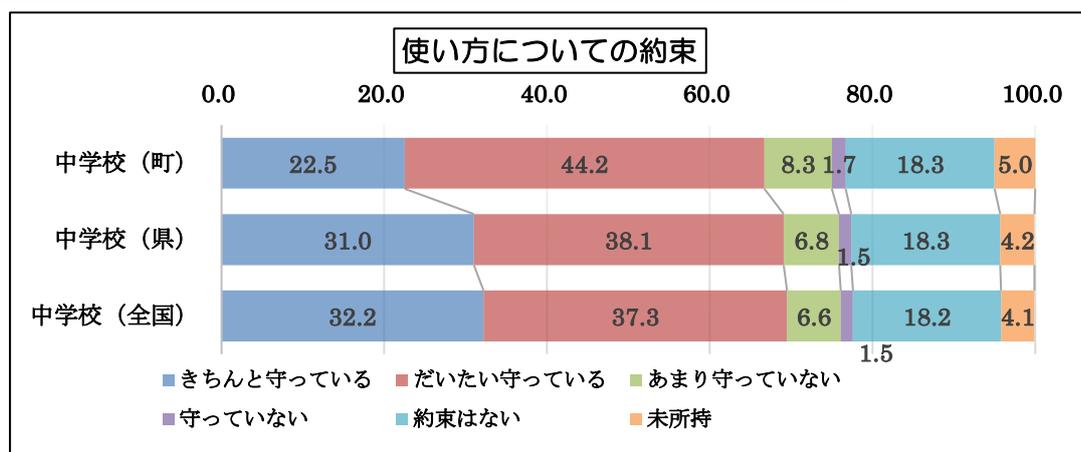
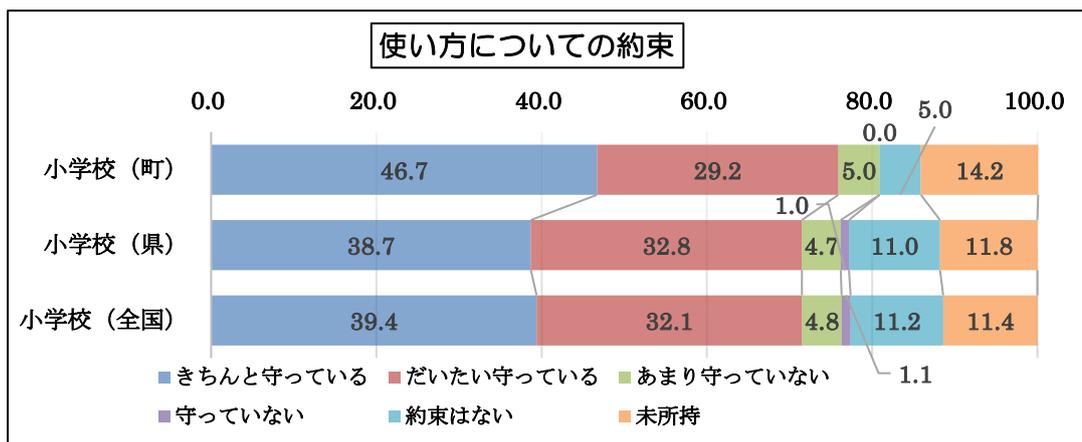
## 【ICT機器の有用性】



## 【SNS・動画視聴状況】



## 【携帯電話・スマートフォンやPCの使い方についての家の人との約束】

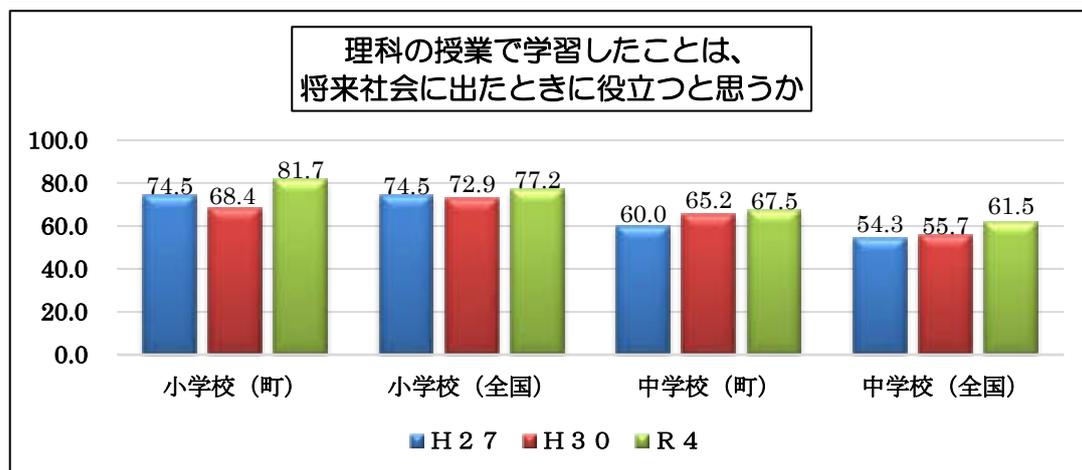
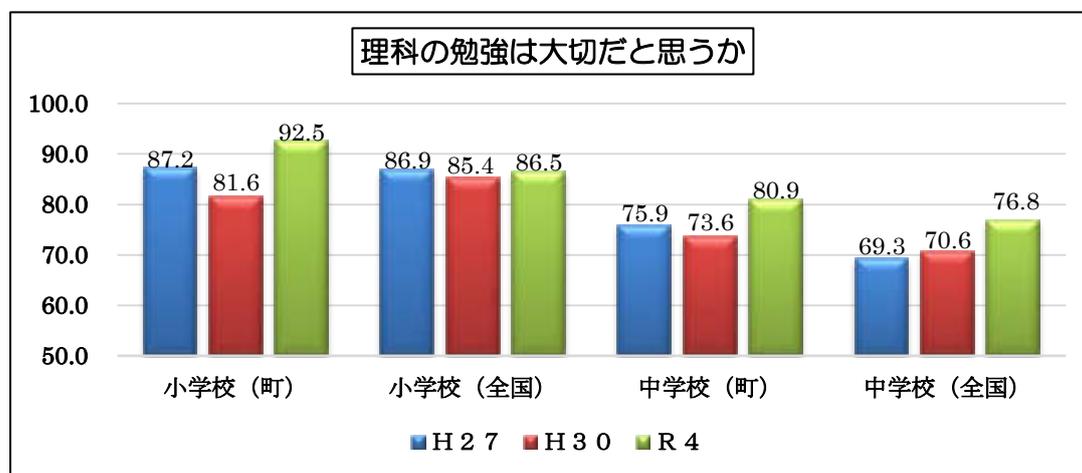
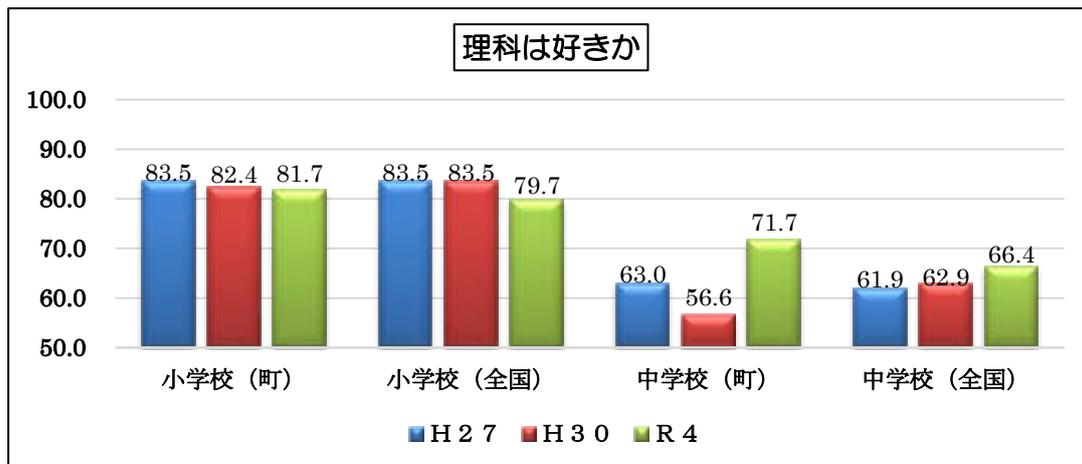


- PC・タブレットの使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- いずれの活用の場面においても使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- ICT機器の有用性については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して高くなっており、有用性の認識度は高い。しかし昨年度との比較においては、香美町、兵庫県、全国ともやや減少傾向にある。
- 1日当たりのSNSや動画視聴を1時間以上行っていると回答した小学校の児童の割合は、全国、兵庫県よりも下回っているが、約47%である。
- 1日当たりのSNSや動画視聴を1時間以上行っていると回答した中学校の生徒の割合は、全国、兵庫県よりも上回っており、約76%である。
- 携帯電話やスマートフォンを「未所持」と回答している小学校の児童の割合は、全国、兵庫県よりやや高いものの、中学校の生徒では、全国、兵庫県よりもやや低くなっている。
- 携帯電話やスマートフォン、PCの使い方について、家の人との約束を守っている小学校の児童の割合は約76%で、全国、兵庫県よりやや高いものの、中学校の生徒では、約67%で全国、兵庫県よりもやや低くなっている。
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの積極的な活用の在り方について研鑽を積むことが求められる。

## オ 理科に関する状況について

理科に関する調査が4年ぶりに実施された。過去2回（平成27年度、平成30年度）の状況等との比較なども含めた結果は以下のとおりである。

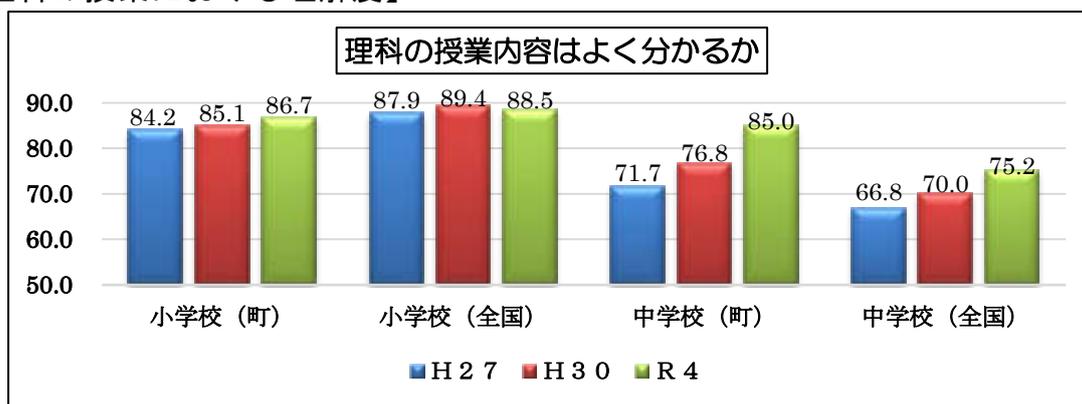
### 【理科に関する興味・関心等】



（注）各質問とも「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合 以下同じ

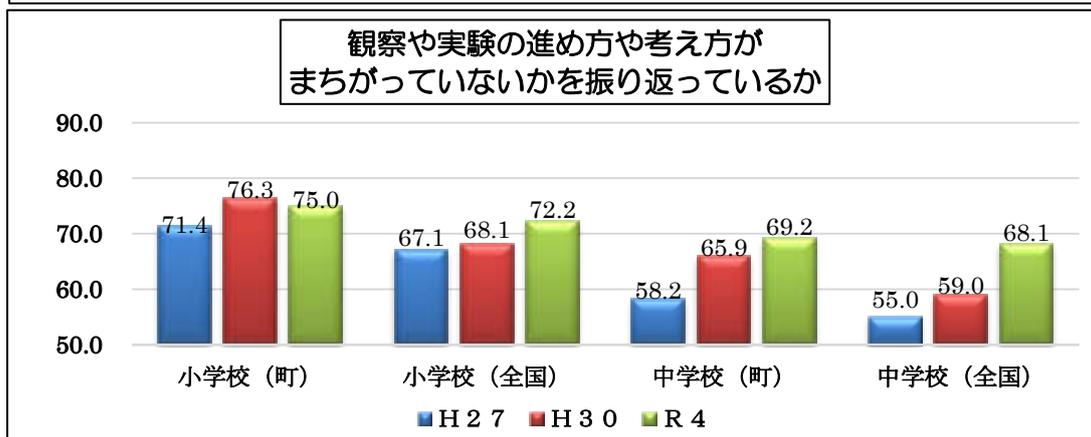
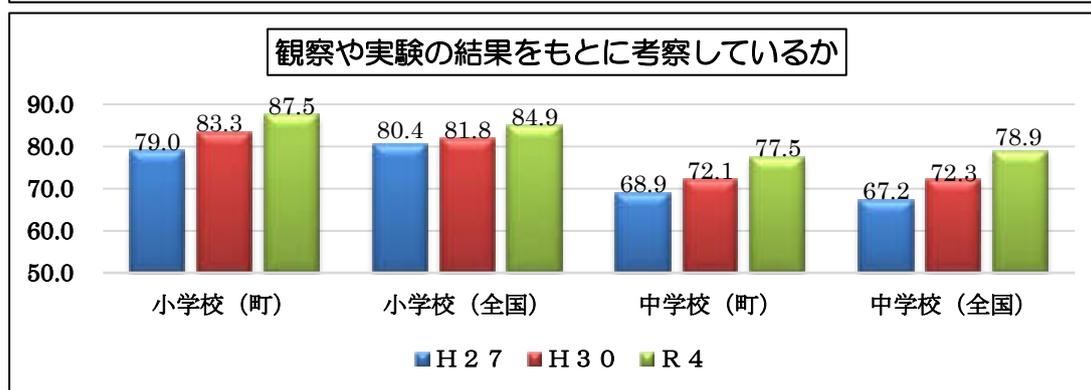
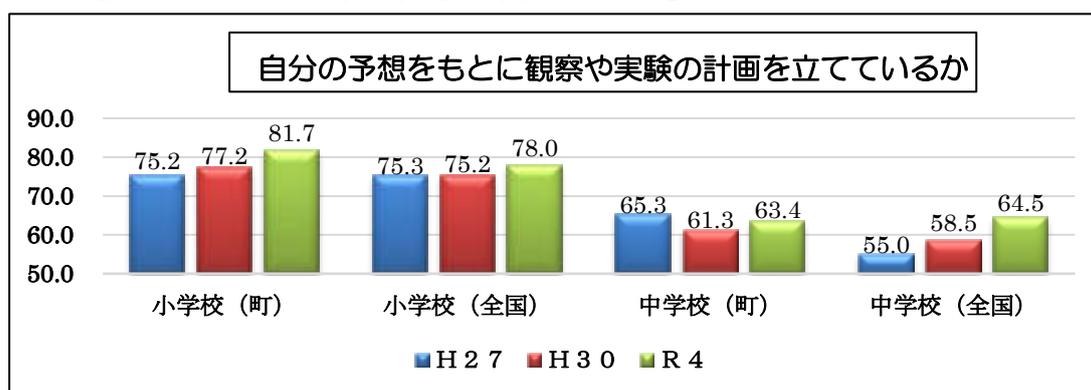
- 理科に関する興味・関心等に関する質問に肯定的に回答した割合は、いずれの年度とも生徒よりも児童のほうが高い。
- 「将来社会に出たときに役立つ」という認識は高まりつつある。特に、児童における伸びが大きい。

【理科の授業における理解度】



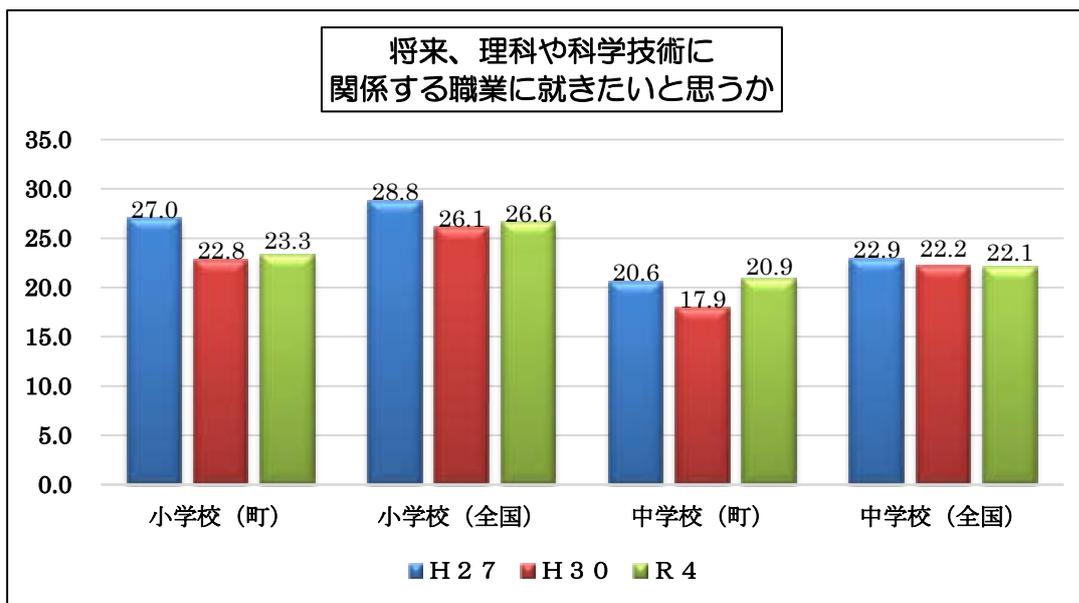
- 理科の授業における理解度に関する質問に、肯定的に回答した割合は、いずれの年度とも生徒よりも児童のほうが高い。
- 年度の経過とともに、児童生徒とも肯定的に回答した割合が高くなりつつある。

【理科の授業における観察や実験に関する状況】



- 問題解決の過程（予想による仮説、観察や実験による結果の考察、振り返りなど）を踏まえた授業に取り組んでいると肯定的に回答した割合は、いずれの年度とも生徒よりも児童のほうが高い。
- 予想による仮説、観察や実験による結果の考察への取組は、児童生徒とも年度を追うごとに肯定的に回答した割合が高くなりつつある。
- 振り返りについては、生徒において年度を追うごとに肯定的に回答した割合が高くなりつつある。

【理科や科学技術に関係する職業への希望状況】



- 「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか」との質問に対して、肯定的に回答した割合は、児童生徒とも約20%程度である。
- 年度の経過による状況については、全国では児童生徒ともゆるやかな減少傾向が見られる。香美町においても、児童において全国と同様の傾向が見られる。

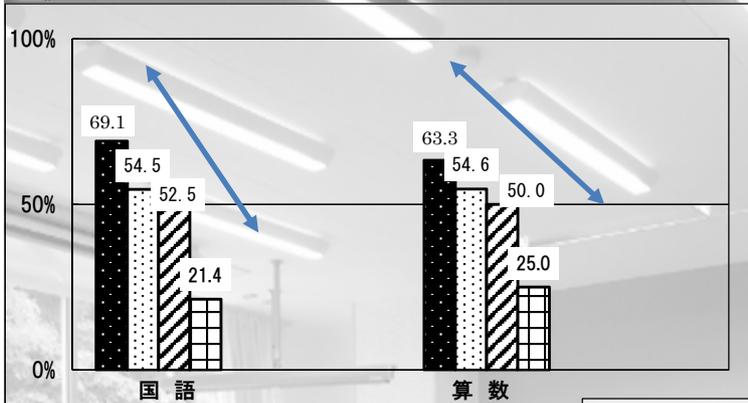
#### (4) 質問紙と学力のクロス分析の状況から

##### ア <主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と正答率の状況について>

###### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

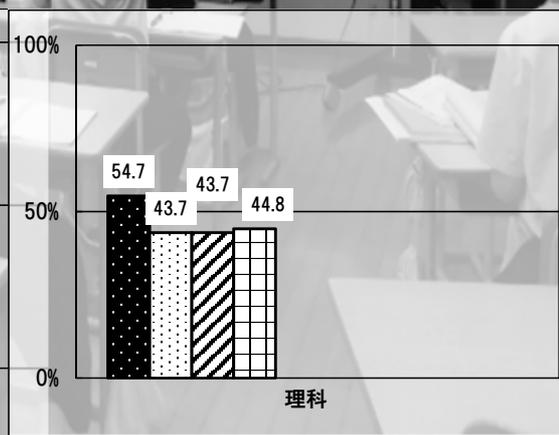
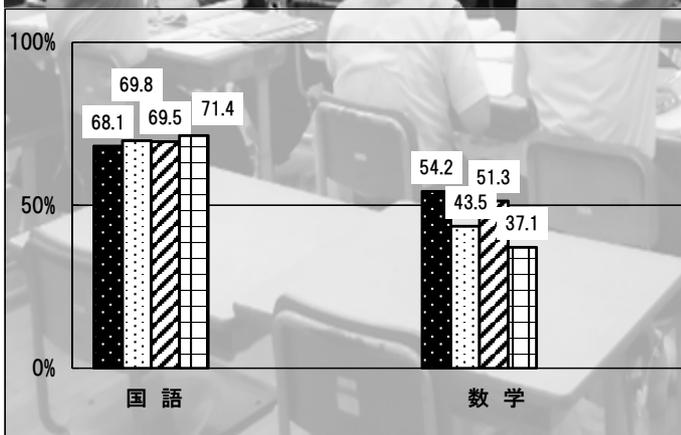
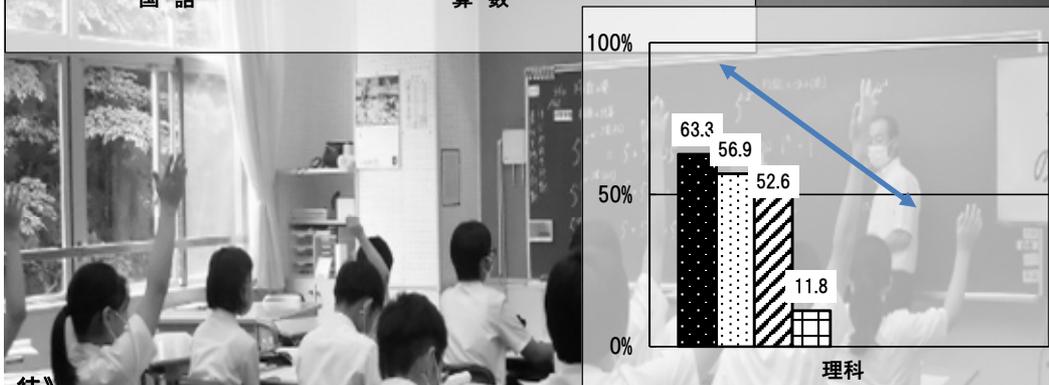
質問番号	質問事項
小(39) 中(39)	5年生までに受けた授業では(1, 2年生のときに受けた授業では), 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいましたか

#### 《児童》



当てはまらない  
どちらかといえば、  
当てはまる  
どちらかといえば、  
当てはまらない  
どちらかといえば、  
当てはまる

#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

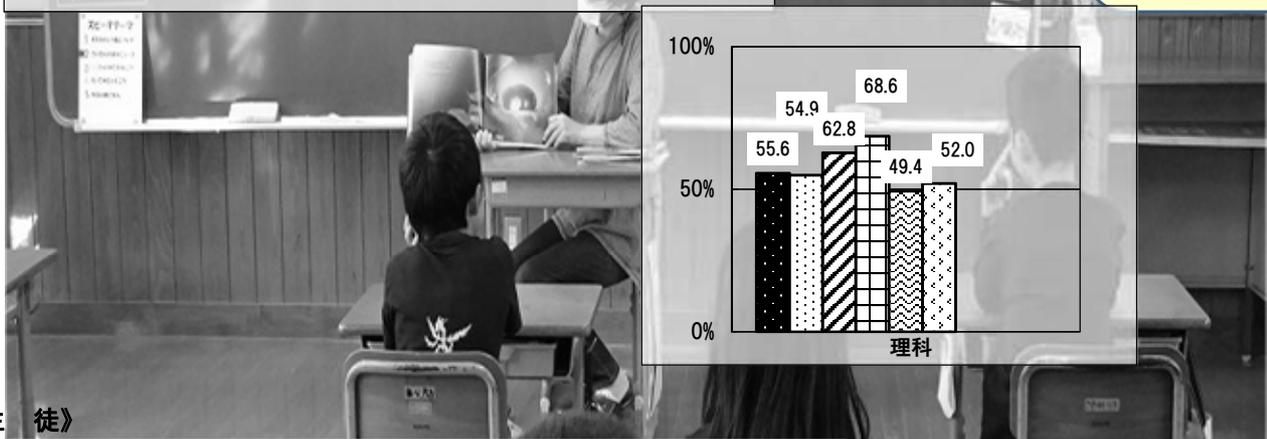
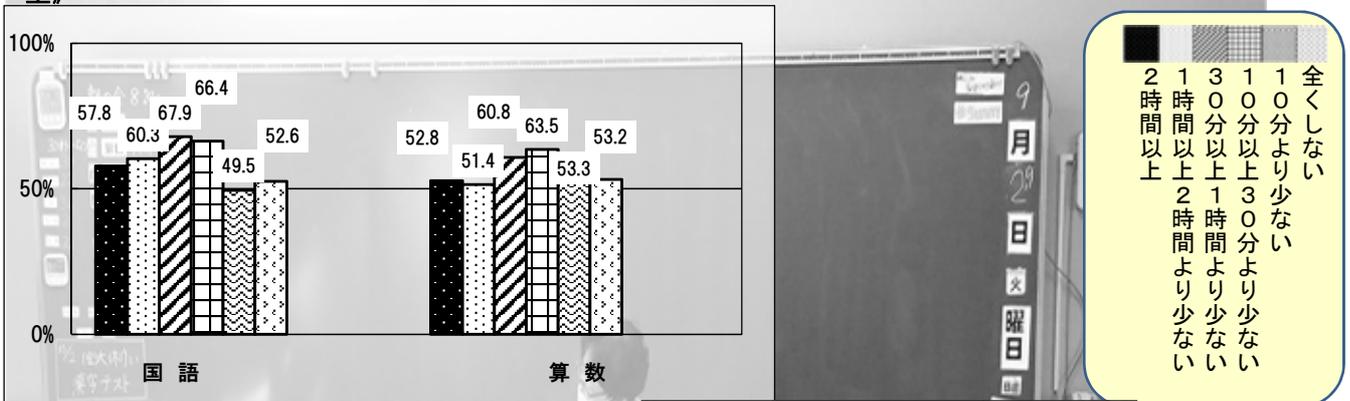
- 児童は肯定的な回答を選択した方が、いずれの教科とも平均正答率が高い傾向にあり、相関が認められる。生徒については、児童のような相関関係は認められない。今後とも、主体的、対話的で深い学びの視点に立った積極的な取組が求められる。
- 学校質問紙では、肯定的な回答をした学校が11校、否定的な回答をした学校が2校ある。

## イ <「読書時間」と正答率の状況について>

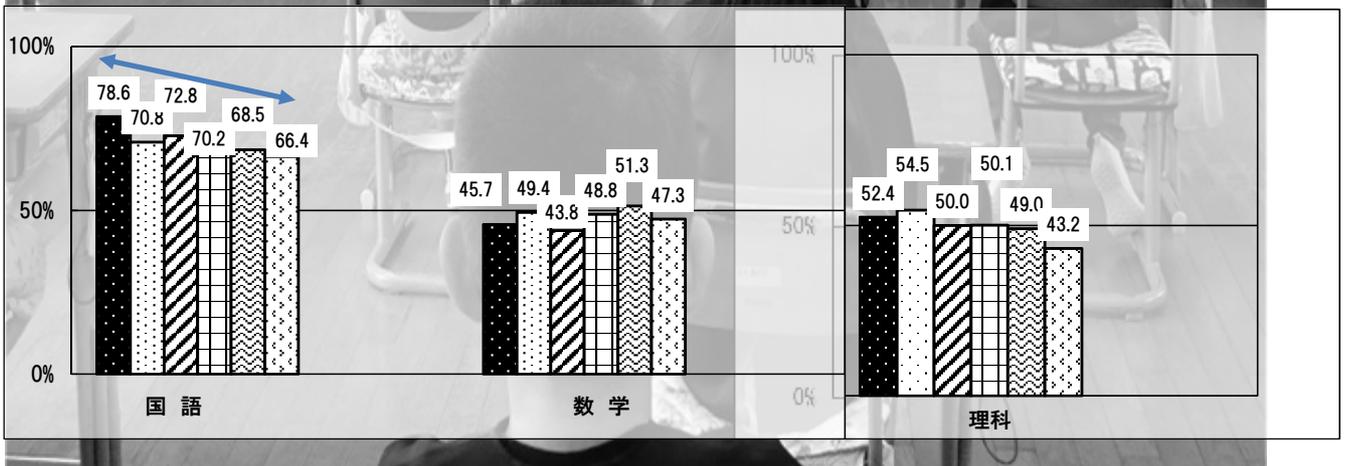
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(21) 中(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

#### 《児童》



#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

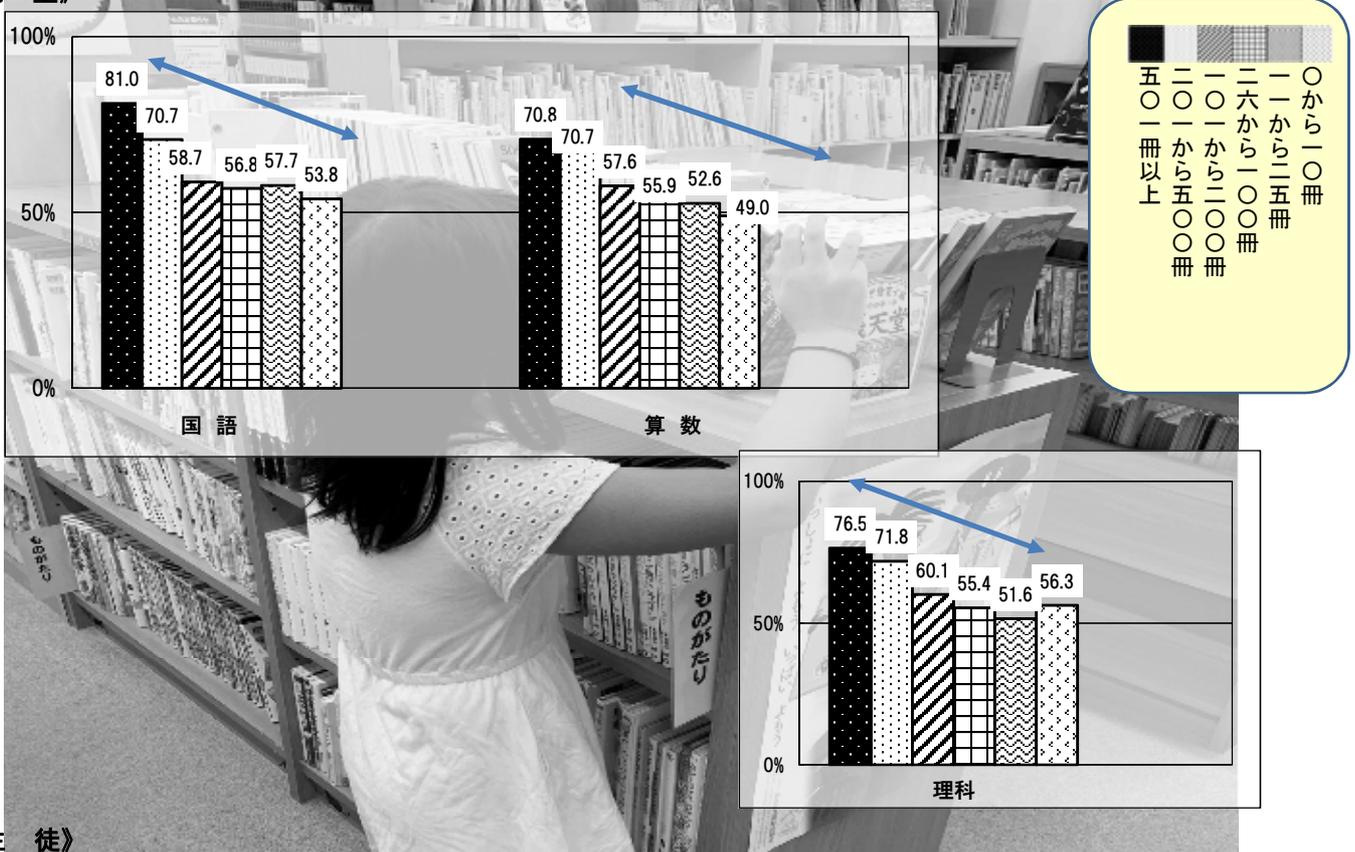
- 生徒は、国語において読書時間数の多少と平均正答率にゆるやかな相関関係が見られる。

## ウ <「家庭の蔵書数」と正答率の状況について>

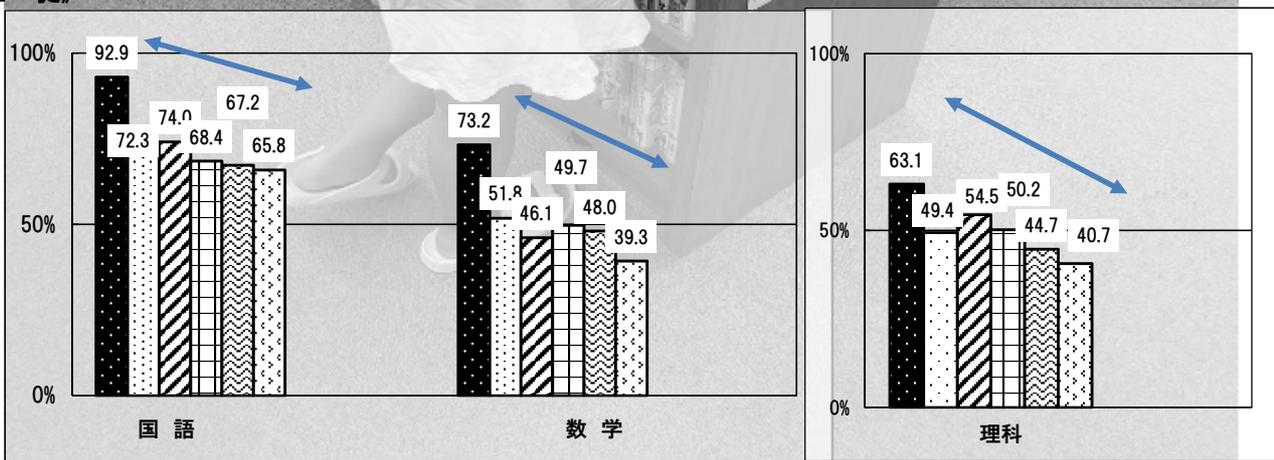
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(24) 中(24)	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

#### 《児童》



#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

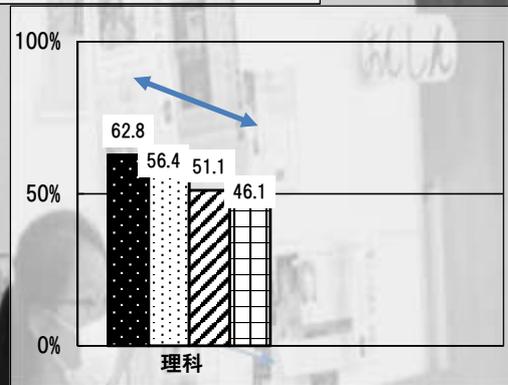
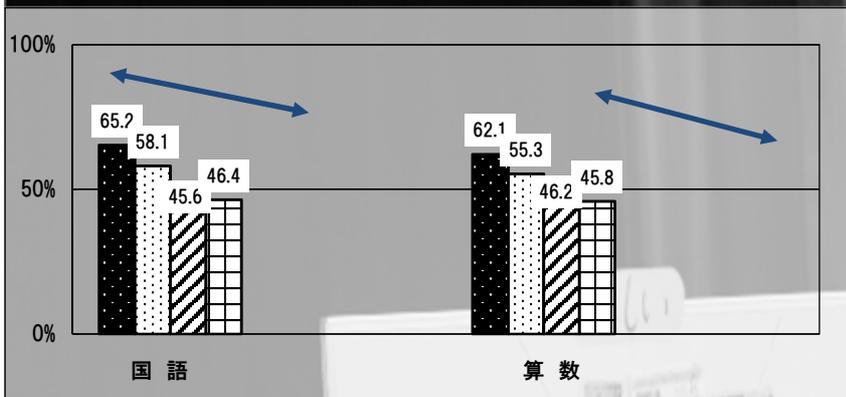
- 児童生徒ともに、家庭の蔵書数とそれぞれの教科の平均正答率との間に、ゆるやかな相関関係が見られる。特に、生徒においては、蔵書数501冊以上と回答している生徒の平均正答率は、国語・数学・理科とも極めて高い。

## エ <自己有用感と正答率の状況について>

### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

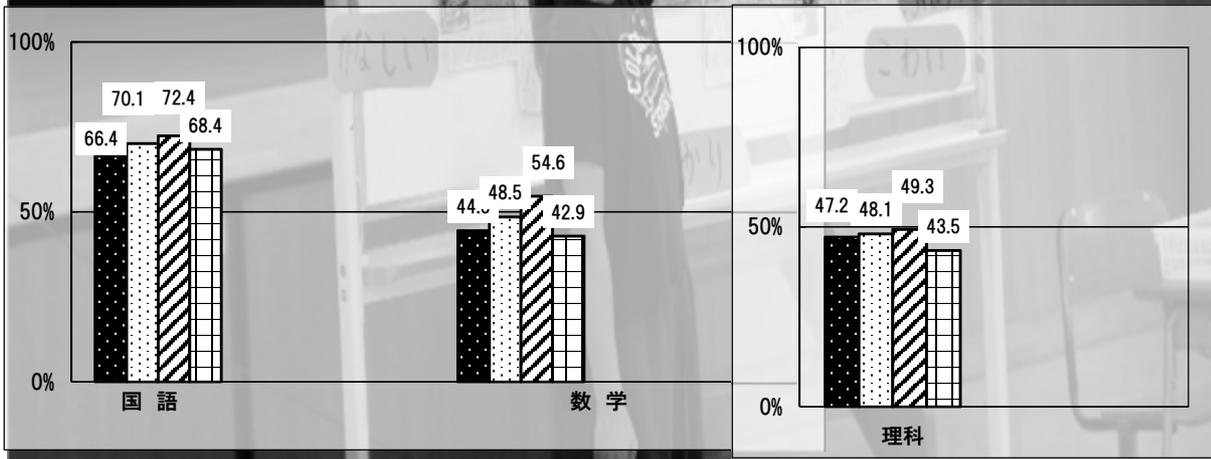
質問番号	質問事項
小(7)、中(7)	自分には、よいところがあると思いますか

#### 《児童》



当てはまらない  
どちらかといえば、当てはまらない  
どちらかといえば、当てはまる  
当てはまる

#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

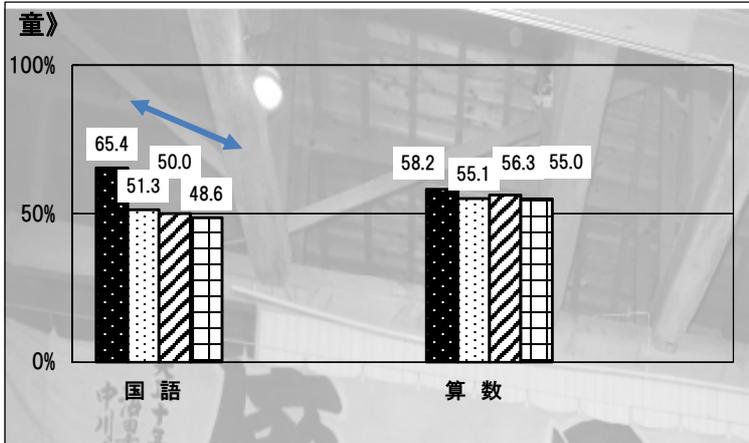
- いずれの教科においても、児童は自己有用感と平均正答率との間に有意な相関関係がみられる。生徒においては、特に有意な差は認められない。

## オ くふるさと意識と正答率の状況について

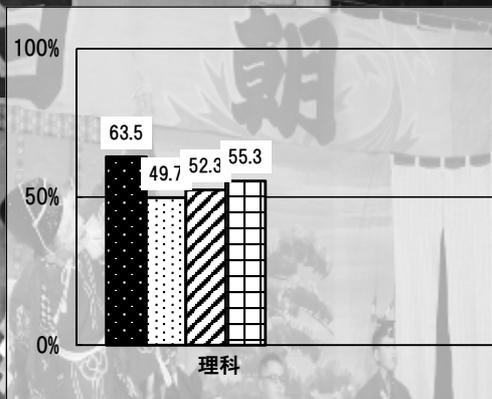
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(29)中(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか

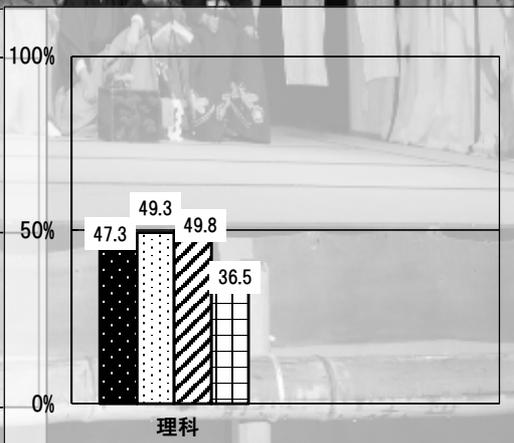
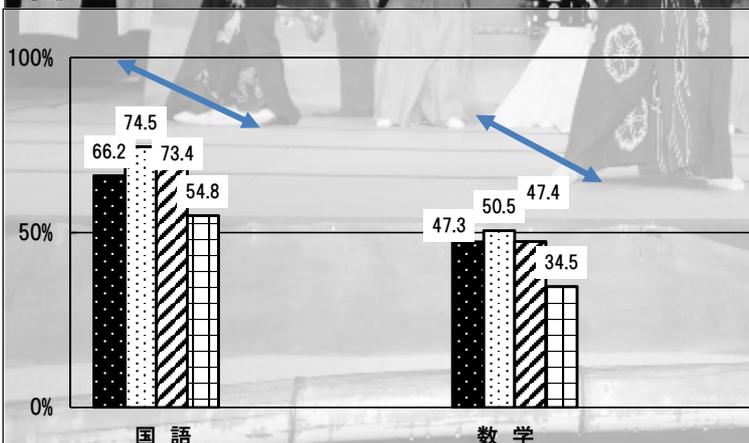
《児童》



当てはまらない  
どちらかといえば、当てはまらない  
どちらかといえば、当てはまる  
当てはまる



《生徒》



### 【分析及び考察】

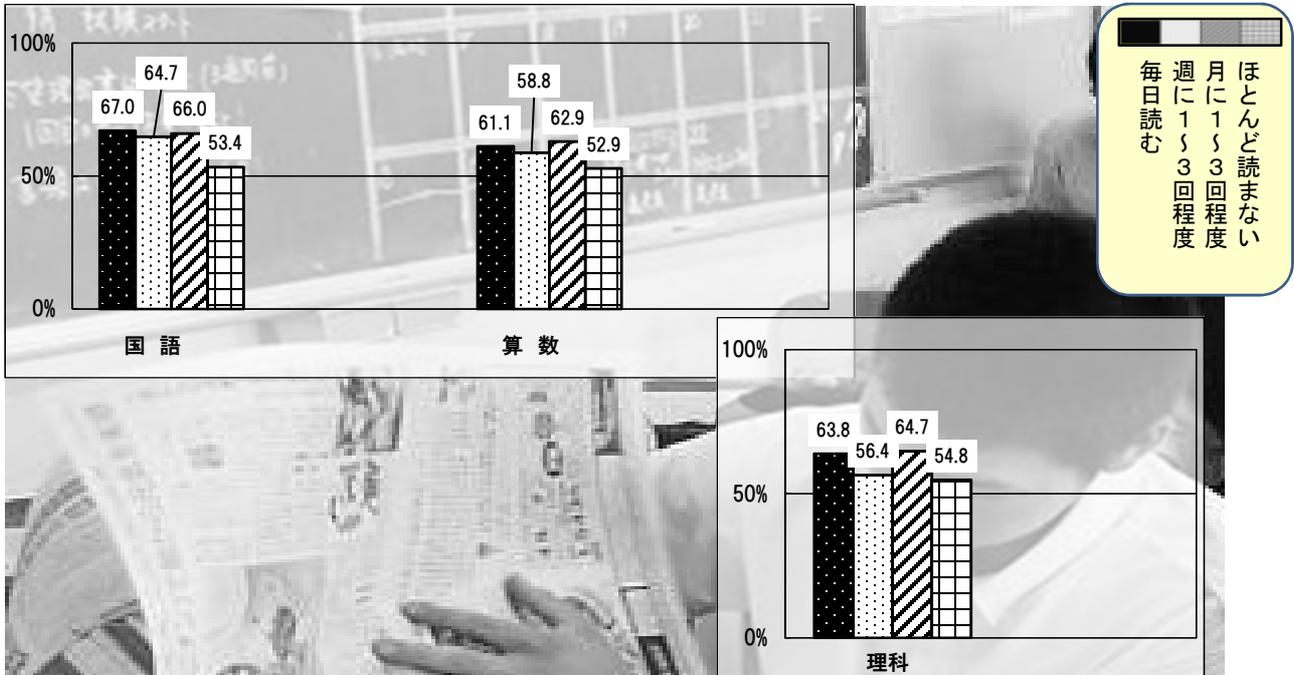
- 児童では国語において、生徒では国語、数学において、平均正答率との間にやや有意な相関関係が見られる。
- 生徒については、肯定的に回答している方が平均正答率が高い傾向にある。
- これまでの結果も踏まえると、ふるさとへの身近な自然や地域行事などに関心を持たせ、体験的に学ぶことが、学力の向上にもつながることを意識して取り組ませたい。

## カ <「新聞を読むこと」と平均正答率の状況について>

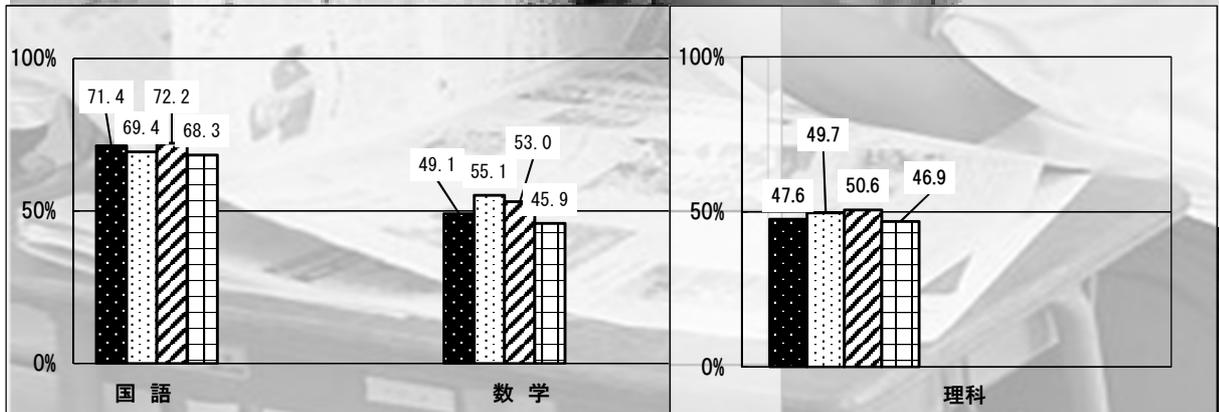
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(25) 中(25)	新聞を読んでいますか

#### 《児童》



#### 《生徒》



#### 〔分析及び考察〕

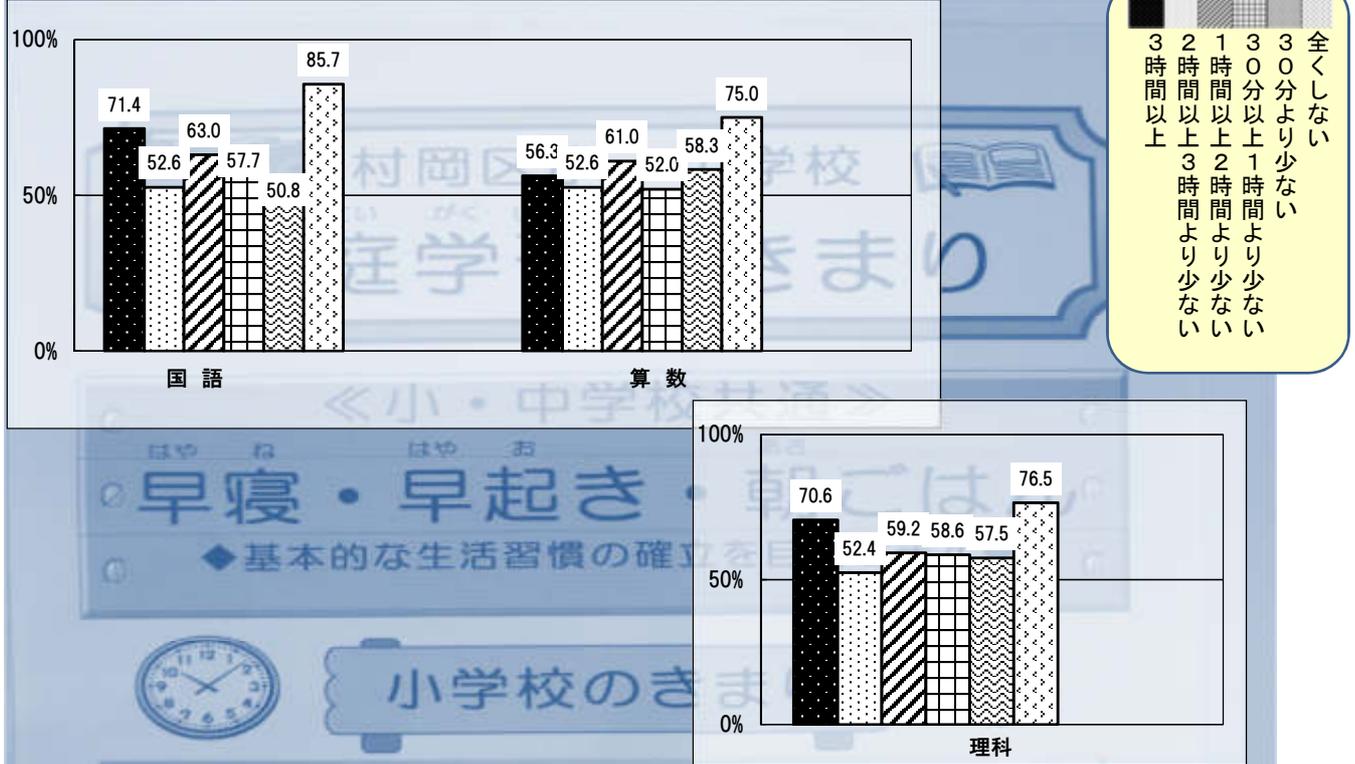
- 児童生徒とも、新聞を読む頻度とそれぞれの教科の平均正答率との間には、特に有意な相関関係はみられない。
- いずれの教科においても「ほとんど、または、全く読まない」と回答している児童生徒の平均正答率が最も低い傾向にある。
- 新聞を読む習慣は、昨年度と比較して児童生徒とも減少しており、クロス集計の結果からも、今後とも、積極的に新聞を読むことを日常生活の一部として取り入れていくことが求められる。

## キ <家庭学習と正答率の状況について>

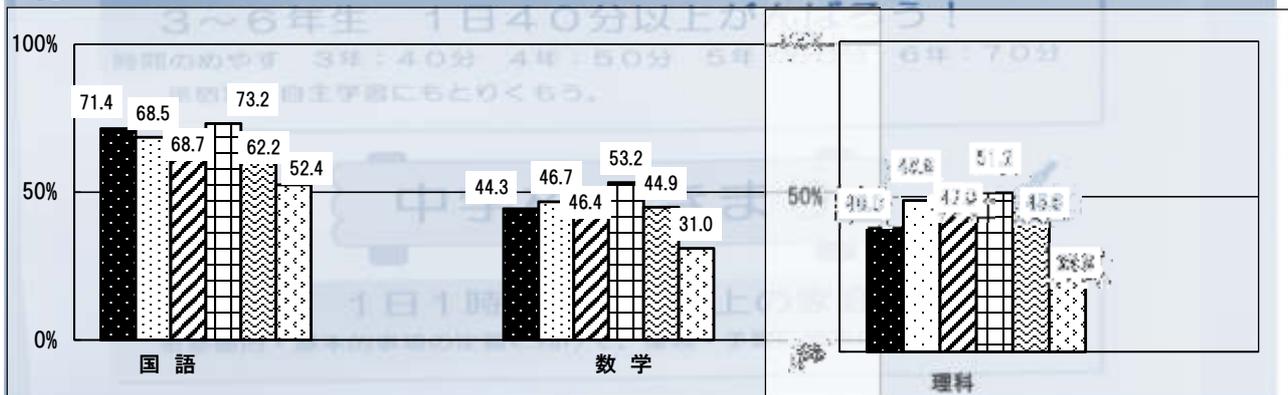
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(21) 中(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

#### 《児童》



#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

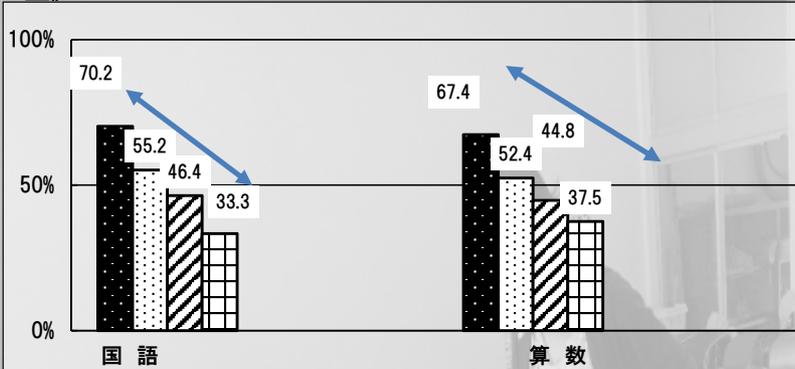
- 児童は、国語、理科において「3時間以上」が、最も平均正答率が高い。
- 生徒は、いずれの教科においても「30分以上、1時間より少ない」が、国語、数学、理科とも最も平均正答率が高い。
- 今回、児童生徒とも家庭学習の時間と平均正答率との間には、特に有意な相関関係は見られない。
- 児童生徒とも、いずれの教科とも「全くしない」と回答している者が一定数いることが課題である。

## ク <「ほめる指導」と正答率の状況について>

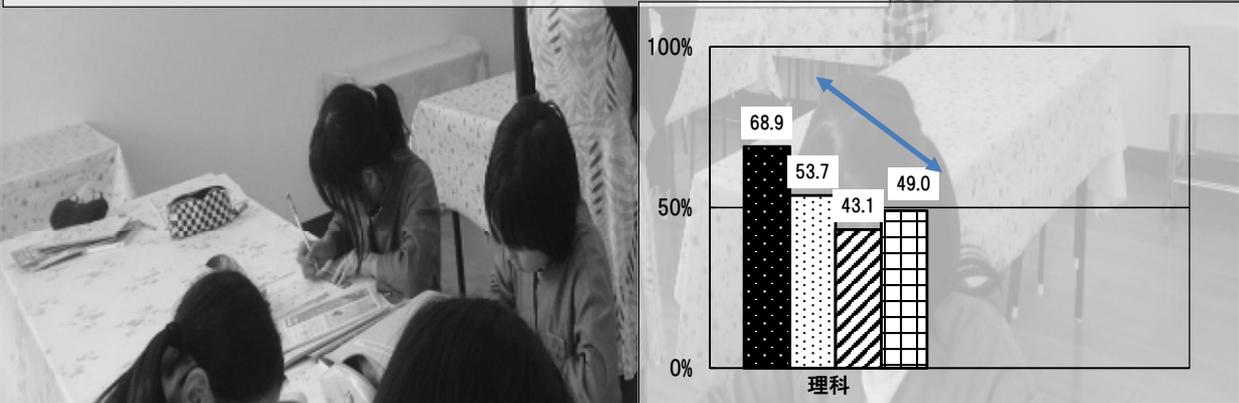
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(8) 中(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

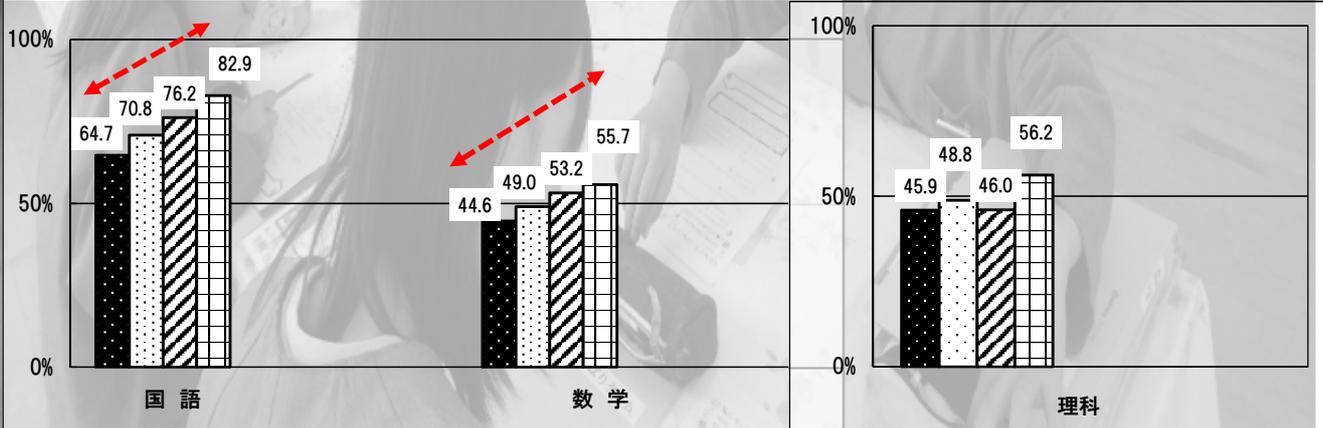
#### 《児童》



当てはまる  
 どちらかといえば、  
 当てはまる  
 どちらかといえば、  
 当てはまらない  
 当てはまらない



#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

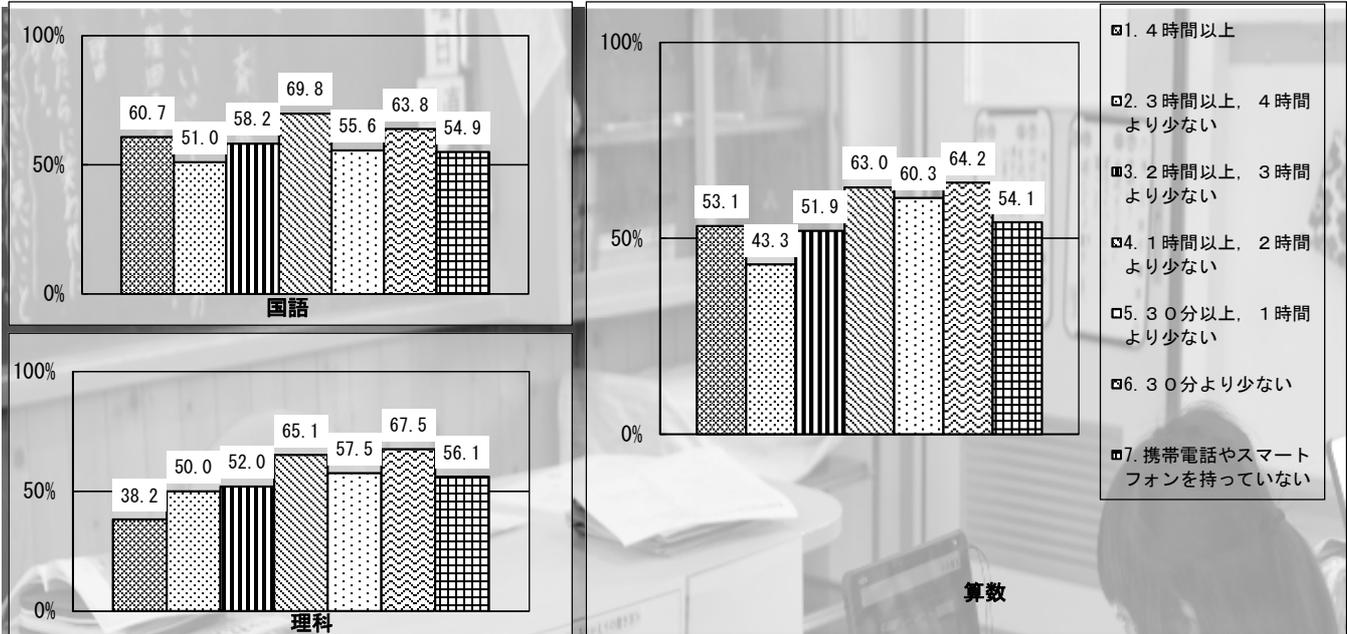
- 児童は、いずれの教科においても、ほめ認められる指導と平均正答率の間に相関関係が見られる。
- 生徒については、国語、数学で逆の相関関係が見られる。理科については、特に有意な相関関係は見られない。

## ケ <「SNSや動画視聴」と正答率の状況について>

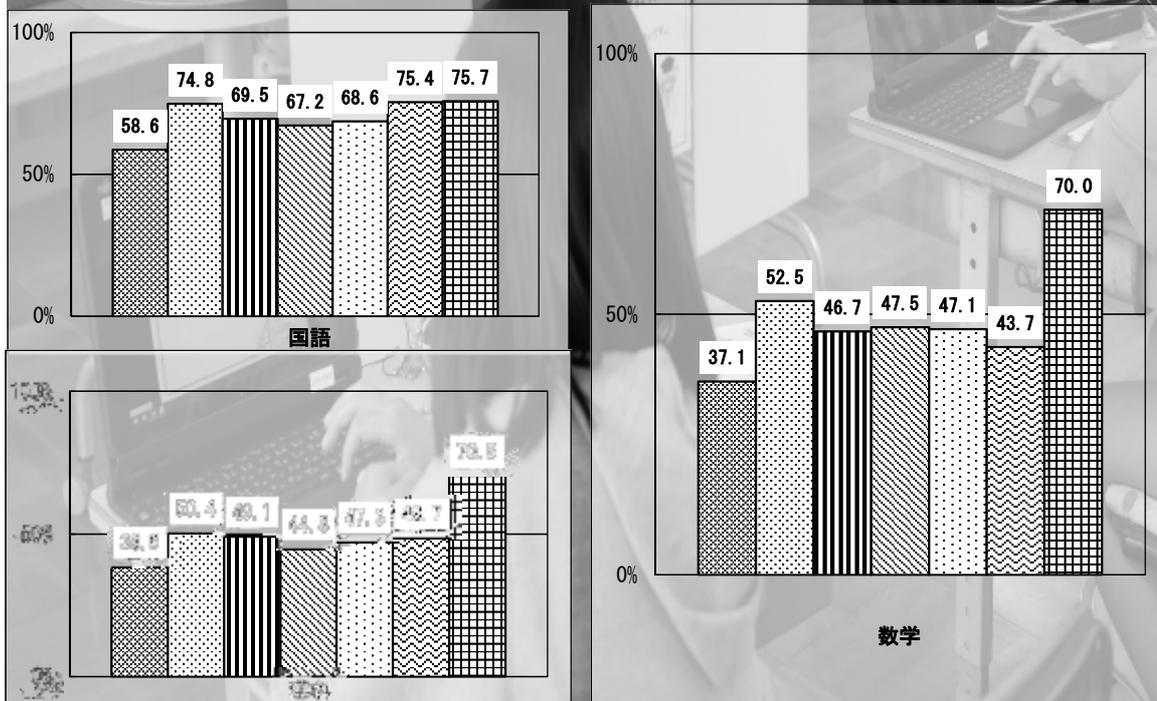
### ◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(学習する時間やゲームをする時間は除く)
中(6)	

#### 《児童》



#### 《生徒》



#### 【分析及び考察】

- 児童生徒ともに、SNSや動画視聴時間とそれぞれの教科の平均正答率との間に有意な相関関係は見られないが、生徒においては、いずれの教科においても携帯電話やスマートフォンを所持していないと回答しているほうが正答率が高い傾向にある。

### 3 今後の取組の方向性について

#### 学校では

コロナ禍で蓄積された新たな知見などを、これからの「学び」に生かそう！

#### 魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し授業の質的転換を図る ～  
児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学習環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき、学力や学習状況の把握に基づき、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

#### <授業実践のポイント>

- 国語科を要として、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- 全児童生徒に配備されたタブレットなどの活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。等

#### 指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質の高まりを図る～

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員や校種間で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

#### <実践のポイント>

- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを行う。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。等

#### 小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の不断の見直しを図り、取組の質的向上を図る～

小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

#### <実践のポイント>

- オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも互いが学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまでに蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

## 家庭・地域では

### 家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点

#### 地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

コロナ禍の臨時休業中、多くの子どもたちは勉強について不安を感じながらも家庭で規則正しい生活に努めていました。子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率は高い傾向にあります。

さらに、家庭の蔵書数が多いほど平均正答率が高いことも報告されています。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」など、様々な機会や場を通じて、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育てていきましょう。

#### <実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など）
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

## 行政では

### 学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさと香美を愛し、夢や志を抱き、共に未来を切り拓く人づくり」をめざし、「第2期香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報紙などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など）
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆ 問題文や各質問紙の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>